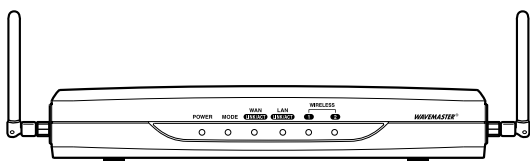


WIRELESS ACCESS POINT **AP-5100A**

IEEE802.11a・g規格同時通信対応
IEEE802.11af規格PoE対応



各章について

各メニューの設定画面について説明しています。
設定画面は、用途別に下記の各メニューに分類されています。

参照ページ



メニュー名など



3ページ	ネットワーク設定	1
17ページ	無線LAN設定	2
45ページ	WAN側設定	3
63ページ	システム設定	4
71ページ	情報表示	5
75ページ	メンテナンス	6
81ページ	ご参考に	7

はじめに

本書は、本製品で設定できるさまざまな機能について、各メニューの設定画面ごとに詳しく説明しています。
取扱説明書[導入編]に記載されていない詳細な機能を設定するときなど、本書と併せてご覧ください。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。

[] 表記：各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。

< > 表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows® XP Professional、Microsoft® Windows® XP Home Editionは、Windows XPと表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Professionalは、Windows 2000と表記します。

Microsoft® Windows® Millennium Editionは、Windows Meと表記します。

Microsoft® Windows® 98 Second Editionは、Windows 98 SEと表記します。

※本書は、Ver1.08のファームウェアを使用して説明しています。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

登録商標について

©アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icomロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

©WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

©Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

©Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。

©Atherosは、Atheros Communications, Inc. の商標です。

©その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

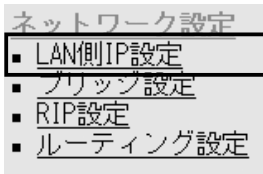
この章では、
「ネットワーク設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1-1.「LAN側IP設定」画面	4
■ 本体名称/IPアドレス設定	4
■ VLAN設定	6
■ DHCPサーバ設定	7
■ 静的DHCPサーバ設定	9
1-2.「ブリッジ設定」画面	10
■ ブリッジ設定	10
1-3.「RIP設定」画面	13
■ RIP設定	13
■ RIPフィルタ設定	14
1-4.「ルーティング設定」画面	15
■ IP経路情報	15
■ スタティックルーティング設定	16

1 「ネットワーク設定」メニュー

1-1. 「LAN側IP設定」画面

■ 本体名称/IPアドレス設定



本製品の名称とLAN側IPアドレスを設定します。

LAN側IP設定
本体をネットワークに接続するための設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 本体IPアドレス/サブネットマスクの設定は再起動後に有効になります。

本体名称/IPアドレス設定

本体名称	①	AP-5100A
IPアドレス	②	192.168.0.1
サブネットマスク	③	255.255.255.0

〈登録〉ボタン ……………

「LAN側IP設定」画面の設定内容を変更したとき、[本体名称/IPアドレス設定]項目の[IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄、および[VLAN設定]項目以外の設定内容が有効になります。

※[IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄、および[VLAN設定]項目を変更した場合は、画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………

「LAN側IP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

本製品を再起動して、「LAN側IP設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

① 本体名称 ……………

ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。

設定した名前は、本製品のLAN側に接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使用できます。

また、Telnet(7-2章)でログインしたときのログインメッセージにも使用されます。(出荷時の設定：AP-5100A)

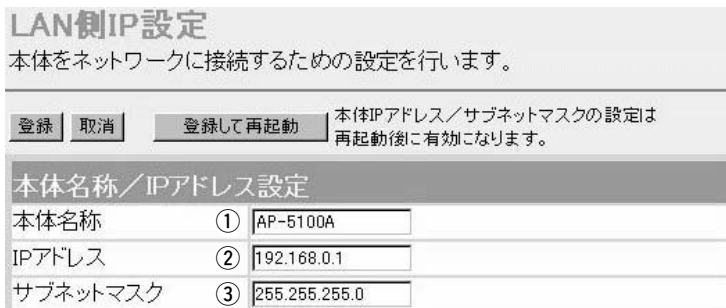
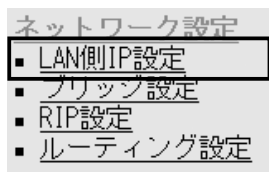
入力形式：[http://web.本体名称/] (例 http://web.AP-5100A/) この場合、[DHCPサーバ設定]項目の[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定しておく必要があります。

※ほかのネットワーク機器との重複に注意して、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)を、31文字以内で設定します。

※登録できない文字は、「#,%/,,:?,@,¥,´」の8種類です。

1-1.「LAN側IP設定」画面

■ 本体名称/IPアドレス設定(つづき)



② IPアドレス …………… 本製品のLAN側IPアドレスの設定です。
 (出荷時の設定：192.168.0.1)
 本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
 ※本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[DHCPサーバ設定]項目の[割り当て開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部を同じに設定してください。

③ サブネットマスク …………… 本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。(出荷時の設定：255.255.255.0)
 本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

例：[ネットワーク管理者から8個のグローバル固定IPアドレスを指定された場合の使いかた]

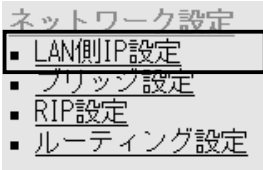
- ◎割り当てられた指定の8個：172.16.0.48 ~172.16.0.55
- ◎サブネットマスク：255.255.255.248
- ◎ネットワークIPアドレス：172.16.0.48(使用できません)
- ◎ブロードキャストアドレス：172.16.0.55(使用できません)
- ◎172.16.0.49(LAN側IPアドレスとして本製品に設定)
- ◎172.16.0.50(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.51(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.52(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.53(本製品に接続するパソコンに使用可能)
- ◎172.16.0.54(本製品に接続するパソコンに使用可能)

※指定以外のグローバルIPアドレスを使用することはできません。
 また、連続で指定された複数のグローバル固定IPアドレスのうち、最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)は、ネットワーク上でホストに割り当てて使用できない規則になっています。

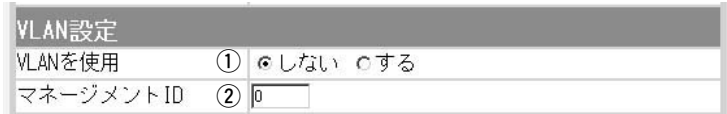
1 「ネットワーク設定」メニュー

1-1.「LAN側IP設定」画面(つづき)

■ VLAN設定



VLAN機能についての設定です。



① VLANを使用 ……………

VLAN(Virtual LAN)機能を使用して、本製品の無線ネットワークと同じ[VLAN ID]が設定された有線ネットワークとだけ通信できるようにするか、しないかを設定します。

(出荷時の設定：しない)

※VLAN機能を「する」に設定するとき、[マネージメントID]欄(②)を「1～4094」に設定してください。

「0」(出荷時の設定)の場合は、設定できません。

※無線ネットワークの[VLAN ID]は、「無線LAN設定」メニューの「無線LAN設定」画面にある[VLANID]欄(※P24)と「暗号化設定」画面にある[キー値]項目の[デフォルトキー]欄(※P34)、[仮想BSS設定]項目(※P35)で設定します。

② マネージメントID ……………

本製品へのアクセスを許可するIDを設定します。

(出荷時の設定：1)

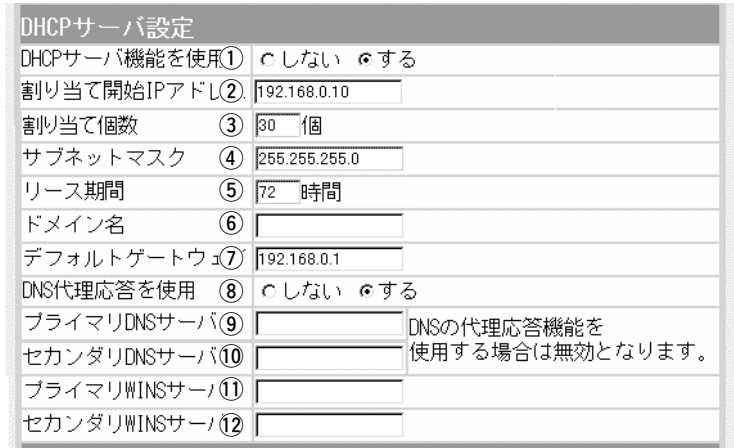
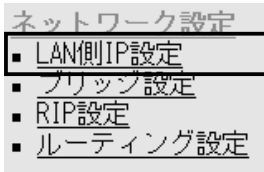
設定できる範囲は、「1～4094」です。

本製品に設定されたマネージメントIDを持つ機器からのアクセスだけを許可できます。

1-1.「LAN側IP設定」画面(つづき)

■ DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能についての設定です。



- ① DHCPサーバ機能を使用 … 本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。本製品のLAN側に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、「IPアドレスを自動的に取得する」と設定している場合、パソコンは、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。 (出荷時の設定：する)

- ② 割り当て開始IPアドレス … 本製品のLAN側に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。 (出荷時の設定：192.168.0.10)

- ③ 割り当て個数 …………… [割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数は、0～128(無線LANで接続するパソコンを含む)までです。 (出荷時の設定：30)
 ※128個を超える分については、設定できませんので手動でクライアントに割り当ててください。
 ※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。

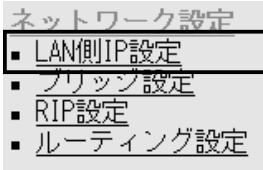
- ④ サブネットマスク …………… [割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクです。 (出荷時の設定：255.255.255.0)

- ⑤ リース期間 …………… DHCPサーバが自動でローカルIPアドレスを定期的に、有線および無線パソコンに割り当てなおす期限を設定します。設定できる範囲は、「1～9999(時間)」です。 (出荷時の設定：72)

1 「ネットワーク設定」メニュー

1-1. 「LAN側IP設定」画面

■ DHCPサーバ設定(つづき)

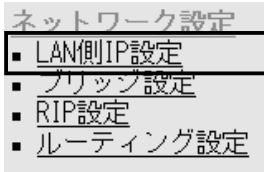


DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス②	192.168.0.10
割り当て個数③	30 個
サブネットマスク④	255.255.255.0
リース期間⑤	72 時間
ドメイン名⑥	
デフォルトゲートウェイ⑦	192.168.0.1
DNS代理応答を使用⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
プライマリDNSサーバ⑨	
セカンダリDNSサーバ⑩	
プライマリWINSサーバ⑪	
セカンダリWINSサーバ⑫	

- ⑥ **ドメイン名** ドメイン名を使用しているときや、プロバイダーからドメイン名を指定されたときなど、DHCPサーバが有線および無線で接続するパソコンに通知するネットワークアドレスのドメイン名を、127文字(半角英数字)以内で入力します。
- ⑦ **デフォルトゲートウェイ** ... ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定された場合に限り、LAN側に通知するゲートウェイを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)
- ⑧ **DNS代理応答を使用** 本製品を代理DNSサーバとして使用するかどうかの設定です。代理DNSサーバ機能とは、パソコンからのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバへ転送する機能です。(出荷時の設定：する)代理DNSサーバ機能を利用すると、ネットワーク上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定している場合、本製品と接続するDNSサーバのアドレスが変更になったときでも、パソコンの設定を変更する必要がありませんので便利です。
- ⑨ **プライマリDNSサーバ** 本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合に有効な機能で、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
※[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定する場合は、無効になります。
- ⑩ **セカンダリDNSサーバ** [プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
※[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定する場合は、無効になります。

1-1.「LAN側IP設定」画面

■ DHCPサーバ設定(つづき)



DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス②	192.168.0.10
割り当て個数③	30 個
サブネットマスク④	255.255.255.0
リース期間⑤	72 時間
ドメイン名⑥	
デフォルトゲートウェイ⑦	192.168.0.1
DNS代理応答を使用⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
プライマリDNSサーバ⑨	
セカンダリDNSサーバ⑩	
プライマリWINSサーバ⑪	
セカンダリWINSサーバ⑫	

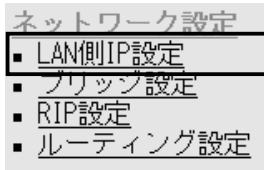
⑩ プライマリWINSサーバ ...

Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。

⑫ セカンダリWINSサーバ ...

「プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

■ 静的DHCPサーバ設定



指定したIPアドレスを特定のパソコンに固定で割り当てるときの設定です。

静的DHCPサーバ設定		
登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	

静的DHCPサーバ設定

本製品のDHCPサーバ機能を使用時、自動で割り当てるIPアドレスを、特定のクライアントに固定して割り当てるとき、そのクライアントのMACアドレスと固定で割り当てるIPアドレスとの組み合わせを登録する欄です。

※この欄には、最大16個の組み合わせまで登録できます。

登録するクライアントのIPアドレスは、DHCPサーバ機能による割り当て範囲および本製品のIPアドレスと重複しないように設定してください。

【登録例】

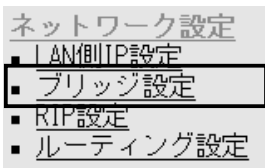
登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	
00-90-C7-6C-00-14	192.168.0.50	<input type="button" value="削除"/>

1 「ネットワーク設定」メニュー

1-2.「ブリッジ設定」画面

■ブリッジ設定



ブリッジ接続でスパニングツリー機能を設定するとき使用します。



〈登録〉ボタン [ブリッジ設定]項目で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
※ 〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン [ブリッジ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお 〈登録〉や 〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン 本製品を再起動して、[ブリッジ設定]項目で変更したすべての設定内容を有効にします。

① スパニングツリー機能を使用

経路のループを検出し、パケットが無限に循環するのを回避して、最適な経路を作成する機能を使用するかしないかを設定します。

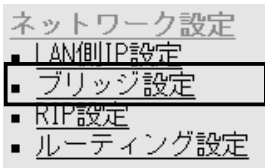
(出荷時の設定：しない)

スパニングツリー機能を設定すると、経路障害のないときは、冗長リンクを検出して重複する経路のうち優先度の低い方を遮断します。

ブリッジ間で経路障害が起こったときは、正常時に遮断されていた経路を使用してネットワークの正常な稼働を保証します。

1-2.「ブリッジ設定」画面

■ブリッジ設定(つづき)



- ② **ブリッジ優先度** ……………
 ※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ブリッジで通信する本製品の優先度を決定する値で、設定値が小さいほど、優先度が高くなります。
 設定できる範囲は「0～65535」で、一番優先度が高いAP-5100Aが、そのネットワークのルートブリッジになります。
 (出荷時の設定：32768)

※同じ値が設定された機器がある場合は、MACアドレスの小さい機器の優先度が高くなります。

- ③ **エージングタイム** ……………
 ※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

本製品が自動学習したMACアドレスをアドレステーブルに記憶しておく時間を指定します。(出荷時の設定：300)
 設定できる範囲は、「15～1000000(秒)」です。
 無通信状態がこの欄に設定された時間つづくと、アドレステーブルから削除されます。

- ④ **マックスエイジ** ……………
 ※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

BPDU(Bridge Protocol Data Unit)を指定します。
 設定できる範囲は、「6～40(秒)」です。(出荷時の設定：20)

- ⑤ **ハロータイム** ……………
 ※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

本製品がルートブリッジとして動作するとき、本製品からBPDU情報を送出する間隔を設定します。
 設定できる範囲は、「1～10(秒)」です。(出荷時の設定：2)

1 「ネットワーク設定」メニュー

1-2.「ブリッジ設定」画面

■ブリッジ設定(つづき)

ネットワーク設定
■ LAN側IP設定
■ ブリッジ設定
■ RIP設定
■ ルーティング設定

ブリッジ設定

ブリッジ機能に関する設定を行います。

このページの設定は再起動後に有効になります。

ブリッジ設定		
スパンニングツリー機能を使用	①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②	<input type="text" value="32768"/>
エージングタイム(Aging Time)	③	<input type="text" value="300"/> 秒
マックスエイジ(Max Age)	④	<input type="text" value="20"/> 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤	<input type="text" value="2"/> 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥	<input type="text" value="15"/> 秒
パスコスト(Path Cost)	有線LAN	<input type="text" value="100"/>
	⑦ 無線[802.11g]	<input type="text" value="200"/>
	無線[802.11a]	<input type="text" value="200"/>
ポート優先度(Port Priority)	有線LAN	<input type="text" value="128"/>
	⑧ 無線[802.11g]	<input type="text" value="128"/>
	無線[802.11a]	<input type="text" value="128"/>

⑥ 転送遅延

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ネットワークの再編成中に学習したMACアドレスの有効期限を設定します。

設定できる範囲は、「4～30(秒)」です。 (出荷時の設定：15)

⑦ パスコスト

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ネットワーク全体のブリッジとルートブリッジ間の優先データパスの決定に利用される値で、各ポートからルートブリッジまでの経路コストが小さいブリッジが優先されます。

設定できる範囲は、「1～65536」です。

(出荷時の設定：有線LAN：100
無線[802.11g]：200
無線[802.11a]：200)

⑧ ポート優先度

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ブリッジで通信する本製品のポートごとに優先度を決定する値で、設定値が小さいほど、ポート優先度が高くなります。

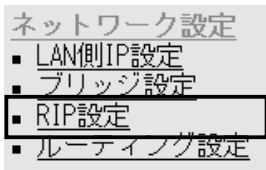
設定できる範囲は、「0～255」です。

(出荷時の設定：有線LAN：128
無線[802.11g]：128
無線[802.11a]：128)

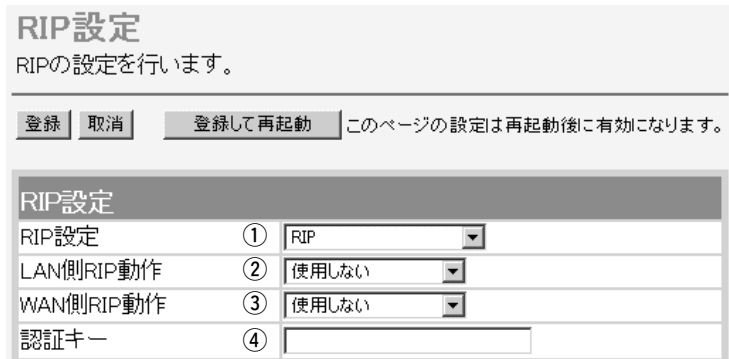
※各ポートで同じ値が設定されている場合は、物理的なポート番号の小さい順に優先度が高くなります。

1-3.「RIP設定」画面

■ RIP設定



隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成するとき 사용합니다。

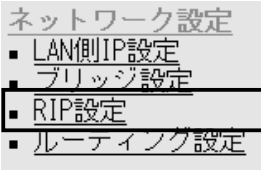


- 〈登録〉ボタン 「RIP設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
※ 〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
- 〈取消〉ボタン 「RIP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン 本製品を再起動して、「RIP設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。
- ① RIP設定 RIPの種類を選択します。 (出荷時の設定：RIP)
 ○RIP : RIPの「Version1」を使用します。
 ○RIP2(ブロードキャスト) :
 RIPの「Version2」を使用して、ブロードキャストアドレスにパケットを送信します。
 ○RIP2(マルチキャスト) :
 RIPの「Version2」を使用して、マルチキャストアドレスにパケットを送信します。
- 【RIP2について】**
 RIP2は、可変長サブネットマスクに対応していますので、イントラネット環境でも利用できます。
 受信については、ブロードキャスト/マルチキャストの区別なく受け入れます。
- ② LAN側RIP動作 LAN側について、[RIP設定]欄で選択したRIPを「使用しない」、「受信のみ」、「受信も送信も行う」から選択します。
(出荷時の設定：使用しない)
- ③ WAN側RIP動作 WAN側について、[RIP設定]欄で選択したRIPを「使用しない」、「受信のみ」、「受信も送信も行う」から選択します。
(出荷時の設定：使用しない)

1 「ネットワーク設定」メニュー

1-3. 「RIP設定」画面

■ RIP設定(つづき)



RIP設定

RIPの設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

RIP設定	
RIP設定	① RIP
LAN側RIP動作	② 使用しない
WAN側RIP動作	③ 使用しない
認証キー	④

④ 認証キー

[RIP設定]①欄で、「RIP2(マルチキャスト)」または「RIP2(ブロードキャスト)」を設定する場合、そのRIP動作を認証するためのキーを入力します。

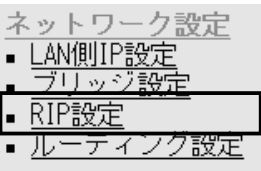
入力は、大文字/小文字の区別にご注意して、半角15文字以内で入力します。

また、ほかのルータやアクセスポイントに設定されている認証キーと同じ設定にします。

認証キーを設定すると、「RIP」を設定しているゲートウェイと、異なる認証キーを設定している「RIP2」、および認証キーを設定していない「RIP2」ゲートウェイからのRIPパケットを破棄します。

※RIPを使用しない場合、または[RIP設定]①欄で「RIP」を設定する場合は、空白にします。

■ RIPフィルタ設定



RIPフィルターについての設定です。

RIPフィルタ設定

登録の追加

フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	
無視する			追加

現在の登録

RIPフィルタ設定.....

同一サブネットで使う複数のアクセスポイントやルータにおいて、特定のアクセスポイントやルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するアクセスポイントやルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。

最大16件の登録が可能です。

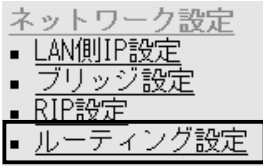
【登録例】

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

現在の登録			
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	
無視する	192.168.0.40	255.255.255.255	削除

1-4.「ルーティング設定」画面

■ IP経路情報



ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータ、またはどのパソコンに配送すべきかの情報を表示します。
この項目には、[スタティックルーティング設定]項目で追加した経路も表示されます。

ルーティング設定
通信経路（ルート）に関する設定を行います。

IP経路①情報		②	③	④	⑤	⑥
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	作成	メトリック	
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

- ① 宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ② サブネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ 経路 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
 ◎ local：インターフェイスがLAN側の場合です。
 ◎ wan：インターフェイスがWAN側の場合です。
 ※「wan」と表示されるのは、回線種別を「DHCP」にしたときです。
 回線種別を「PPPoE」または「PPPoE複数固定IP」に設定したときは、「WAN側設定」画面で[接続先名]欄に設定された内容を「01:WAN」に代わって表示します。
 ※インターフェイスの詳細は、「情報表示」メニューの「ネットワーク情報」画面にある[ネットワーク インターフェイス リスト]項目に表示します。
- ⑤ 作成 どのように経路情報が作成されたかを表示します。
 ◎static：スタティック(定義された)ルートにより作成
 ◎rip：ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成
 ◎misc：ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成
- ⑥ メトリック [スタティックルーティング設定]項目の[メトリック]欄で設定された値や、ダイナミックルーティングで作成された経路のコストを表示します。

1 「ネットワーク設定」メニュー

1-4.「ルーティング設定」画面(つづき)

■ スタティックルーティング設定

ネットワーク設定

- LAN側IP設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定**

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。

登録できるのは、最大32件までです。

経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	⑥
local					追加

現在の登録

経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック

- ① **経路** 回路の経路を指定します。
◎ local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
◎ wan : 登録する経路情報がWAN側の場合です。
※「wan」と表示されるのは、回線種別を「DHCP」にしたときです。
回線種別を「PPPoE」または「PPPoE複数固定IP」に設定したときは、「WAN側設定」画面で[接続先名]欄に設定された内容を「O1:WAN」に代わって表示します。
- ② **宛先** 経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
※IPアドレスは、ゲートウェイのネットワーク部と同じにします。
- ③ **サブネットマスク** 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ④ **ゲートウェイ** ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
※入力は、[経路]欄で入力したIPアドレスのネットワーク部と同じにします。
- ⑤ **メトリック** 宛先までのコストを表す数値を入力します。
数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。
0(空白)~15まで入力できます。
- ⑥ **〈追加〉** 設定した内容で[IP経路情報]項目に登録します。
登録されると、その内容は[IP経路情報]項目に表示されます。
※操作後は、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

この章では、

「無線設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

※[IEEE802.11g]規格と[IEEE802.11a]規格が別々の設定画面で構成されている画面については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

2-1.「セキュリティ設定」画面	18
■ RADIUS設定	18
■ 無線端末間通信設定	20
■ MACアドレスセキュリティ設定	21
2-2.「無線LAN設定」画面	22
■ 無線LAN設定	22
2-3.「暗号化設定」画面	30
■ 暗号化設定	30
■ キー値	34
■ 仮想BSS設定	35
■ 現在の登録	38
■ 設定例について	39
2-4.「AP間通信設定」画面	43
■ IEEE802.11g BSSID	43
■ 通信AP設定	44

2 「無線LAN設定」メニュー

2-1.「セキュリティ設定」画面

■ RADIUS設定

無線LAN設定

■ セキュリティ設定

IEEE802.11g

- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a

- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- AP間通信設定

RADIUSサーバによる無線パソコンへの認証接続についての設定をします。

セキュリティ設定

RADIUSやMACアドレスセキュリティなど、無線LANを使用するときの認証設定を行います。RADIUS機能を使用する場合、暗号化設定のキーIDは無効になります。暗号化方式がRC4の場合のみ暗号キーの自動配信を行います。

RADIUS設定は再起動後に有効になります。

RADIUS設定

RADIUS機能を使用	①	<input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
	②	プライマリ	セカンダリ
サーバアドレス	③	<input type="text"/>	<input type="text"/>
サーバのポート番号	④	<input type="text" value="1812"/>	<input type="text" value="1812"/>
シークレットキー	⑤	<input type="text"/>	<input type="text"/>
キーの自動変更	⑥	<input checked="" type="checkbox"/> IEEE802.11g	<input checked="" type="checkbox"/> IEEE802.11a
再認証間隔	⑦	<input type="text" value="120"/>	分

〈登録〉ボタン ……………

[MACアドレスセキュリティ設定]項目の内容が有効になります。
※[RADIUS設定]項目を変更した場合は、画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………

「セキュリティ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

本製品を再起動して、「セキュリティ設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

① RADIUS機能を使用 ………

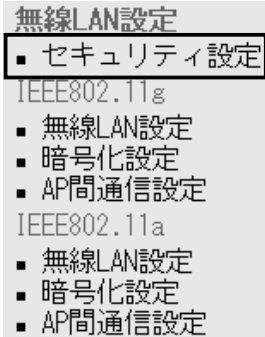
RADIUSサーバを使って無線パソコンへの認証をするかしないかを選択します。(出荷時の設定：しない)
本製品は、EAP-MD5とEAP-TLSに対応しています。
「RADIUS機能を使用する」に設定している場合は、「暗号化設定」画面の[キーID]欄の設定は無効になります。
また、RADIUSサーバとの鍵交換は、「WEP RC4」を[暗号化方式]欄で設定しているとき有効で、クライアント側では、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続の設定で、「キーは自動的に提供される(H)」にチェックマークが入っている状態に該当します。
「OCB AES」を[暗号化方式]欄で設定しているときは、RADIUS認証だけを行います。
このときは、RADIUSサーバと鍵交換しません。

② プライマリ/セカンダリ ……

[プライマリ]列に設定したサーバから応答がないとき、その次にアクセスさせるRADIUSサーバがあるときは、[セカンダリ]列にそのRADIUSサーバアドレスを設定します。

2-1.「セキュリティ設定」画面

■ RADIUS設定(つづき)



セキュリティ設定

RADIUSやMACアドレスセキュリティなど、無線LANを使用するときの認証設定を行います。RADIUS機能を使用する場合、暗号化設定のキーIDは無効になります。暗号化方式がRC4の場合のみ暗号キーの自動通信を行います。

登録 取消 登録して再起動 RADIUS設定は再起動後に有効になります。

RADIUS設定	
RADIUS機能を使用	① <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
	② プライマリ セカンダリ
サーバアドレス	③ <input type="text"/> <input type="text"/>
サーバのポート番号	④ 1812 1812
シークレットキー	⑤ <input type="text"/>
キーの自動変更	⑥ <input checked="" type="checkbox"/> IEEE802.11g <input checked="" type="checkbox"/> IEEE802.11a
再認証間隔	⑦ 120 分

- ③ サーバアドレス …………… 対象となるRADIUSサーバのIPアドレスを入力します。

- ④ サーバのポート番号 ……… 対象となるRADIUSサーバの認証ポートを設定します。
設定できる範囲は、「1～65535」です。(出荷時の設定：1812)
※ご使用になるシステムによっては、出荷時の設定値と異なることがありますので、ご確認ください。

- ⑤ シークレットキー …………… この欄に設定されたキーを使用して本製品とRADIUSサーバ間の通信パケットを暗号化します。
RADIUSサーバに設定された値と同じ値を入力します。
入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。

- ⑥ キーの自動変更 …………… 本製品のRADIUS機能を使用するとき有効な機能で、Windows 2000(Service Pack4)やWindows XPを使って本製品にIEEE802.11g認証でアクセスする[IEEE802.11g]規格または[IEEE802.11a]規格の無線パソコンに対して、RADIUSサーバから定期的に異なるキーをその無線パソコンに自動で割り当てするかしないかの設定です。
(出荷時の設定：IEEE802.11g IEEE802.11a)
※チェックマークが付いている無線LAN規格が有効です。
※弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティーは、この機能に対応していませんので、この設定ユーティリティーをWindowsXPにインストールして使用している無線パソコンでは、機能しません。

- ⑦ 再認証間隔 …………… RADIUSサーバに再度認証を要求する間隔を設定します。
設定できる範囲は、「30～9999(分)」です。(出荷時の設定：120)

2 「無線LAN設定」メニュー

2-1.「セキュリティ設定」画面(つづき)

■無線端末間通信設定

無線LAN設定

■セキュリティ設定

IEEE802.11g

- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a

- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- AP間通信設定

本製品を介してパソコンどうしが無線通信するのを禁止するとき設定します。

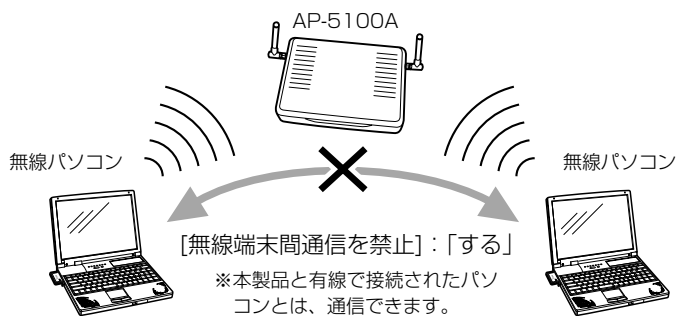
この機能は、[IEEE802.11a/b/g]のいずれかの規格で通信するすべての無線パソコンが対象になります。

(出荷時の設定：しない)

無線端末間通信設定

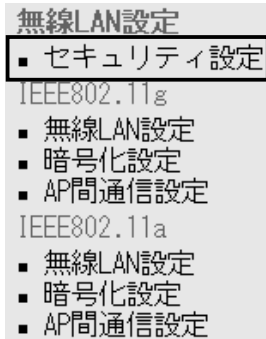
無線端末間通信を禁止

しない する

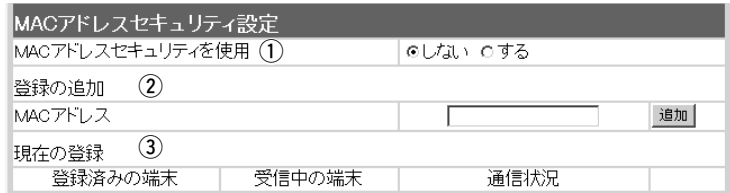


2-1.「セキュリティ設定」画面(つづき)

■ MACアドレスセキュリティ設定



通信を許可する無線パソコンのMACアドレスを登録することで、登録していない無線パソコンからの通信を制限するとき必要な設定です。



① MACアドレス

セキュリティを使用 ………

本製品に登録されたMACアドレスを持つ無線LANのパソコンだけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
「する」を選択すると、[現在の登録]欄に登録されていないMACアドレスを持つ無線LANからのアクセスを防止します。

② 登録の追加 ……………

この欄に対象となる無線LANカードのMACアドレスを入力して〈追加〉をクリックすると、[登録済みの端末]欄に登録されます。MACアドレスセキュリティが有効なとき、[登録済みの端末]欄に表示されたMACアドレスをもつ無線LANカードとだけ通信できます。
※最大256台分のMACアドレスを登録できます。
※入力は半角英数字で12桁(16進数)を入力します。
※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。
※2つの入力例は、同じMACアドレスになります。
(入力例：00-90-C7-6E-00-9A、0090C76E009A)

③ 現在の登録 ……………

本製品と無線で通信しているパソコンの状況や登録済みの無線パソコンのMACアドレスを表示します。
登録されているMACアドレスは、〈削除〉ボタンで登録を削除できます。
なお、登録されていないMACアドレスを持つ無線パソコンも[受信中の端末]欄にMACアドレスが表示されますので、その欄に表示される〈追加〉ボタンをクリックすることで、そのパソコンのMACアドレスを追加登録できます。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-2.「無線LAN設定」画面

■ 無線LAN設定

無線LAN設定

■ セキュリティ設定

IEEE802.11g

■ 無線LAN設定

■ 暗号化設定

■ AP間通信設定

IEEE802.11a

■ 無線LAN設定

■ 暗号化設定

■ AP間通信設定

内蔵無線LANカードに対する設定です。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されていますが、説明については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明します。

無線LAN設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの設定を行います。

登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
無線LAN設定			
IEEE802.11gを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
SSID	②	LG	
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
VLAN ID	④		
チャンネル	⑤	11(2462MHz)	
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	無し	
11g保護機能	⑦	有効	
パワーレベル	⑧	高	
接続端末制限	⑨	255	
Super A/Gを使用	⑩	しない	

〈登録〉ボタン ……………

「無線LAN設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。

※〈登録して再起動〉をクリックするまで、変更した内容が有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………

「無線LAN設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

本製品を再起動して、「無線LAN設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

① IEEE802.11gを使用 ……

※[IEEE802.11a]規格の「無線LAN」画面では、[IEEE802.11aを使用]と表示されます。

[IEEE802.11g]規格の無線アクセスポイント機能を停止させるとき設定します。(出荷時の設定：する)

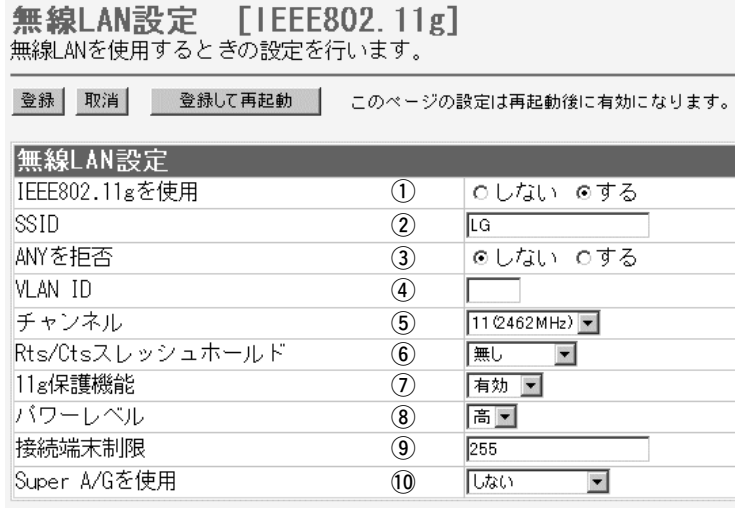
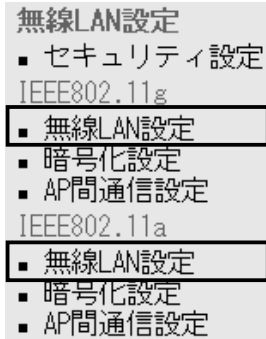
※[IEEE802.11g]規格の「無線LAN」画面で、「しない」を設定すると、[IEEE802.11b]規格の通信もできなくなります。

※[IEEE802.11a]規格の無線アクセスポイント機能を停止させるときは、[IEEE802.11a]規格用の「無線LAN」画面で設定します。

※[IEEE802.11g]規格側で、「しない」を設定したときは、無線アクセスポイント機能を停止し、「AP間通信設定」画面にある[IEEE802.11g BSSID]項目には、「ユニットを使用していません」と表示されます。

2-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)



② SSID.....

※「仮想BSS設定」画面 (P35)で、[SSID]を設定されている場合は、重複しないように、ご注意ください。
[SSID]が重複すると、仮想BSS設定が無効になります。

無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。無線ルータや無線アクセスポイントが無線伝送エリア内に複数存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを[SSID(無線ネットワーク名)]で識別したり、異なる無線ネットワーク名で通信するグループからの混信を防止できます。この[SSID]が異なると本製品と無線で通信できません。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。(出荷時の設定：LG)

※[SSID]と[ESS ID]は、同じ意味で使用しています。
本製品以外の無線LAN機器では、[ESS ID]と表記されている場合があります。

③ ANYを拒否.....

「ANY」モード(アクセスポイント自動検索接続機能)で動作している無線パソコンからの検索や接続を拒否するかしないかを設定します。(出荷時の設定：しない)
出荷時の設定では、弊社製無線LANカード(SL-111やSL-110を除く)を装着するパソコンとの接続が容易になるように、これらの無線パソコンからの検索や接続を許可しています。この設定を「する」にした場合、「ANY」モードで通信する無線パソコンが使用する「Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続」や「無線ネット表示に対応する弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティー」に検索されません。
※ご使用のパソコンにSL-50(ドライバーのVer.1.34以降)やSL-5000、SL-5000XG、SL-5100、SL-5200をインストールしたときは、出荷時から「ANY」モードで動作しています。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定
■ セキュリティ設定
IEEE802.11g
■ 無線LAN設定
■ 暗号化設定
■ AP間通信設定
IEEE802.11a
■ 無線LAN設定
■ 暗号化設定
■ AP間通信設定

無線LAN設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの設定を行います。

登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
無線LAN設定			
IEEE802.11gを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
SSID	②	LG	
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
VLAN ID	④		
チャンネル	⑤	11(2462MHz)	
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	無し	
11g保護機能	⑦	有効	
パワーレベル	⑧	高	
接続端末制限	⑨	255	
Super A/Gを使用	⑩	しない	

④ VLAN ID

※この画面に設定したID番号は、「ネットワーク設定」メニューの「LAN側IP設定」画面にある[VLAN ID設定]項目で、[VLANを使用]欄を「する」に設定すると有効になります。
(P6)

[SSID]の無線グループに[VLAN ID]を設定して、有線ネットワークとのあいだで仮想ネットワークを構成するとき使用します。

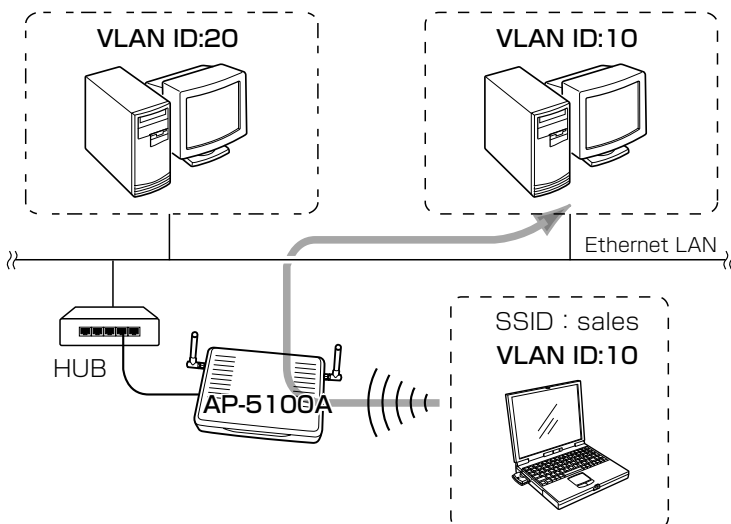
「無線LAN設定」画面に設定された[SSID](出荷時の設定：LG)に所属する無線グループのID番号を設定します。

設定できる範囲は、「1～4094」です。

上の図に示すように、同じID番号が設定された有線ネットワークと無線ネットワークだけが、本製品を介して通信できます。

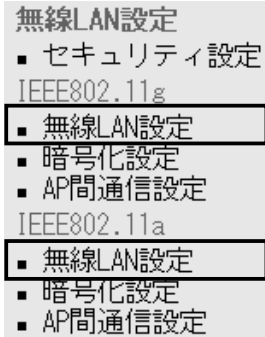
異なるID番号のネットワークとは通信できません。

※下記の図で、[VLAN ID]が「20」の有線ネットワークと通信できる無線グループを追加して、本製品を複数の無線グループで使用する場合は、[仮想BSS設定]項目で、異なる[SSID]とID番号を登録することで、本書35ページの図に示すようなネットワーク構成で使用できます。



2-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)



無線LAN設定 [IEEE802.11g]
無線LANを使用するときの設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
SSID	②	LG
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
VLAN ID	④	
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	無し
11g保護機能	⑦	有効
パワーレベル	⑧	高
接続端末制限	⑨	255
Super A/Gを使用	⑩	しない

⑤チャンネル

本製品が無線通信に使用するチャンネルを設定します。

◎2.4GHz帯で通信するときは、[IEEE802.11g]規格側の「無線LAN設定」画面で、「1～13」チャンネルを選択します。

(出荷時の設定：11(2462MHz))

◎5.2GHz帯で通信するときは、[IEEE802.11a]規格側の「無線LAN設定」画面で、「34、38、42、46」チャンネルの中から選択します。

(出荷時の設定：34(5170MHz))

※無線パソコン側は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。

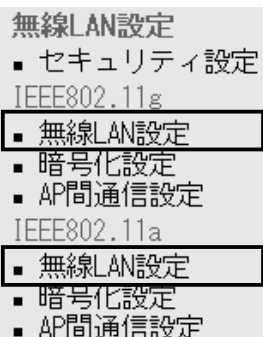
※無線AP間通信(2-4章)を使用するときは、相手の無線アクセスポイントと同じチャンネルに設定してください。

☞次ページにつづく

2 「無線LAN設定」メニュー

2-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)



無線LAN設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの設定を行います。

登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
無線LAN設定			
IEEE802.11gを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
SSID	②	LG	
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
VLAN ID	④		
チャンネル	⑤	11(2462MHz)	
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	無し	
11g保護機能	⑦	有効	
パワーレベル	⑧	高	
接続端末制限	⑨	255	
Super A/Gを使用	⑩	しない	

⑤チャンネル(つづき) ………

近くに2.4GHz帯(IEEE802.11b/g)の無線アクセスポイント機能で通信する別の無線ネットワークグループが存在するときは、電波干渉を避けるため、本製品の[IEEE802.11g]規格側の「チャンネル」は、別の無線ネットワークグループと4チャンネル以上空けて設定してください。

それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。

例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。

※5.2GHz帯(IEEE802.11a)で通信する場合は、お互いを異なるチャンネルに設定すれば、チャンネル間の電波干渉に配慮する必要はありません。



2-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定

- セキュリティ設定
- IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- AP間通信設定
- IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- AP間通信設定

無線LAN設定 [IEEE802.11g]
無線LANを使用するときの設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
SSID	②	LG
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
VLAN ID	④	
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	無し
11g保護機能	⑦	有効
パワーレベル	⑧	高
接続端末制限	⑨	255
Super A/Gを使用	⑩	しない

⑥ Rts/Ctsスレッシュ

ホールド ……………

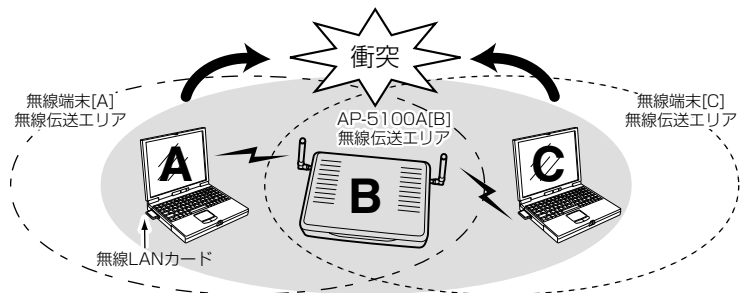
ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。

(出荷時の設定：無し)

Rts/Cts(Request to Send/Clear to Send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。

隠れ端末とは、下図のように、それぞれが本製品[B]と無線通信できても、互いが直接通信できない無線パソコン[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。

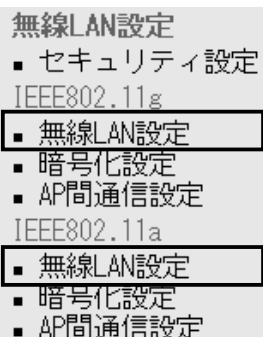
通信の衝突を防止するには、無線パソコン[A]から送信要求(Rts)信号を受信した本製品[B]が、無線伝送エリア内にある無線パソコン[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線パソコン[C]に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線パソコン[C]は、本製品[B]から受信完了通知(ACK)を受信するまで本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



2 「無線LAN設定」メニュー

2-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)



無線LAN設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの設定を行います。

登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
無線LAN設定			
IEEE802.11gを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
SSID	②	LG	
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
VLAN ID	④		
チャンネル	⑤	11(2462MHz)	
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	無し	
11g保護機能	⑦	有効	
パワーレベル	⑧	高	
接続端末制限	⑨	255	
Super A/Gを使用	⑩	しない	

⑦ 11g保護機能

※[IEEE802.11a]規格の「無線LAN」画面には、設定がありません。

アクセスしてくる無線パソコンの無線LANの規格を認識して、接続を制限できます。(出荷時の設定：無効)

接続制限することで、[IEEE802.11b(11Mbps)]規格の通信を制限して、[IEEE802.11g(54Mbps)]規格の通信に影響されないように保護します。

◎「無効」：[IEEE802.11g]規格または[IEEE802.11b]規格の無線パソコンと通信できます。

◎「有効」：[IEEE802.11b]規格と混在するネットワーク環境で、[IEEE802.11g]規格の通信速度が極端に遅い場合に設定します。

「有効」に設定すると、[IEEE802.11g]規格の無線パソコンとの通信を優先させます。

優先させることで、[IEEE802.11g]規格の通信速度が低下することを防止できます。

◎「g専用」：[IEEE802.11g]規格の無線パソコンとだけ通信できます。

⑧ パワーレベル

本製品に内蔵された無線LANカードの送信出力を設定します。

高/中/低(3段階)の中から選択できます。(出荷時の設定：高)

本製品の最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。

パワーレベルを低くすると、それに比例して伝送距離も短くなります。

【パワーレベルを低くする目的について】

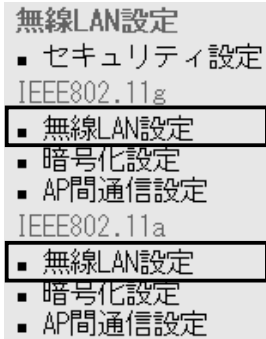
◎本製品から送信される電波が部屋の外に漏れるのを軽減したいとき

◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき

◎比較的狭いエリアに複数台の無線アクセスポイントが設置された環境で、近くの無線クライアントや無線アクセスポイントとの電波干渉を無くして、通信速度の低下などを軽減したいとき

2-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)



⑨ 接続端末制限 ……………

本製品に同時接続可能な無線パソコンの台数を設定します。設定できる範囲は、「1～255」です。(出荷時の設定：255) 接続制限を設定すると、本製品1台だけに接続が集中するのを防止(本製品の負荷を分散)できますので、接続集中による通信速度低下を防止できます。

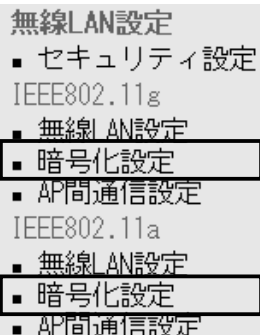
⑩ Super A/Gを使用……………

米国Atheros Communications社が開発した、独自の無線LAN高速化技術です。(出荷時の設定：しない) 「しない」、「する(圧縮なし)」、「する(圧縮あり)」から選択できます。「する(圧縮あり)」を選択すると、通信速度がさらに向上します。
 ※すでに圧縮されているデータを取り扱う機会が多い場合、「する(圧縮あり)」を使用すると、圧縮されたデータを転送しているあいだは、速度が低下する原因となります。
 このような場合は、「する(圧縮なし)」に設定してご使用ください。
 ※[Super A/G]の設定を「する(圧縮あり)」に設定して、無線AP間通信機能と暗号化[WEP(RC4)、OCB AES]機能を併せて使用する場合は、[キーID](P33)の設定を無線AP間通信する相手と同じ設定にしてください。
 通信相手と異なる[キーID]を設定すると、通信できなくなります。
 ※[キー値]項目で[デフォルトキー]欄(P34)を設定する場合は、「する(圧縮あり)」を使用できません。
 ※[仮想BSS設定]項目で[暗号キー]欄(P36)を設定する場合は、「する(圧縮あり)」を使用できません。
 ※無線パソコンに装着された無線LANカードが、[Super A/G]に対応していない場合は、[Super A/G]を使用しないときと同じ状態になります。

2 「無線LAN設定」メニュー

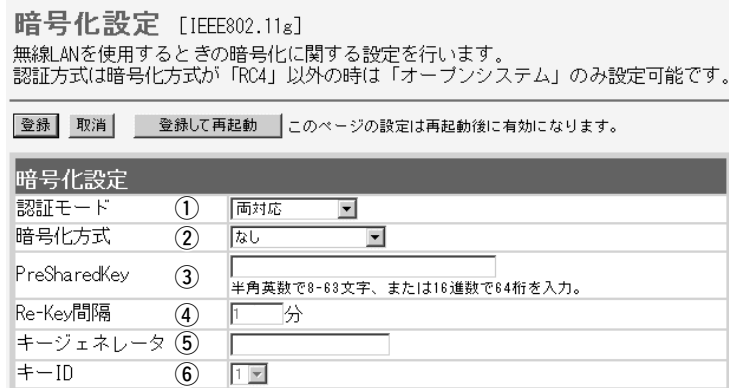
2-3.「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定



無線LANで通信するデータを保護するために、暗号化するための設定です。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されていますが、説明については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明します。



〈登録〉ボタン ……………

「暗号化設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………

「暗号化設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

本製品を再起動して、「暗号化設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

① 認証モード ……………

※「OCB AES 128(128)」設定時は、「オープンシステム」しか設定できません。

[暗号化方式](②)欄で、「WEP RC4 64(40)」、「WEP RC4 128(104)」、「WEP RC4 152(128)」、「OCB AES 128(128)」を選択したとき、その暗号化を使用する無線LANからのアクセスに対する認証方式を設定します。

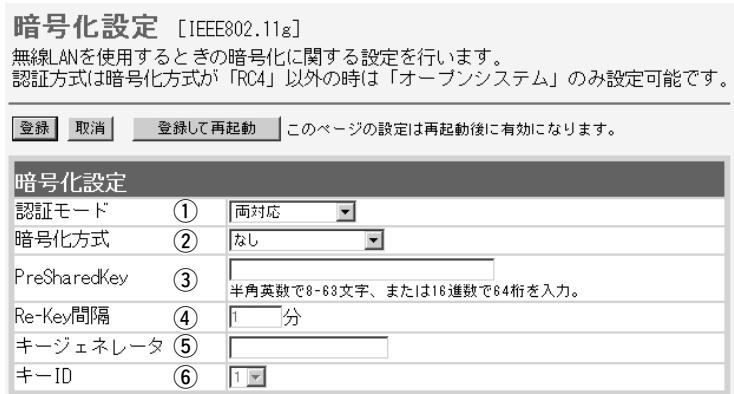
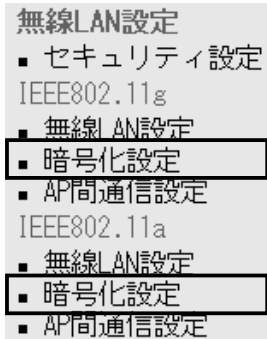
(出荷時の設定：両対応)

※通信相手と認証モードが異なると通信できません。

- ◎両対応 : 無線LANのアクセスに対して、「オープンシステム」と「シェアードキー」を自動認識しますので、通信相手間で暗号化鍵(キー)が同じであれば通信可能です。
- ◎オープンシステム : 無線LANのアクセスに対して認証しません。
- ◎シェアードキー : 無線LANのアクセスに対して通信相手と同じ暗号化鍵(キー)かどうかを認証します。

2-3.「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定(つづき)



② 暗号化方式

無線伝送データを暗号化する方式を選択します。

(出荷時の設定：なし)

対応する暗号化方式は、「WEP RC4」、「OCB AES」、「WPA-PSK(TKIP/AES)」です。

異なる暗号化方式の相手とは互換性がありませんので、暗号化方式とビット数は、通信を行う相手間で、同じ設定にしてください。

※Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続で対応していない暗号化[WEP RC4 152(128)/(OCB AES)]方式での接続は、弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティをご使用ください。

◎WEP RC4：

無線通信で一般によく使用されるセキュリティーです。

暗号化方式は、WEP RC4(Rivest's Cipher 4)アルゴリズムをベースに構成されています。

暗号化するデータのブロック長が8ビットで、暗号化鍵(キー)の長さを選択できます。

※暗号化鍵(キー)の長さは、64(40)/128(104)/152(128)ビットの中から選択できます。

※「WEP RC4 152(128)」方式は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用して本製品に接続できません。

◎OCB AES：

[WEP RC4]より強力で、標準化が推進されている次世代の暗号化方式です。

※Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用して本製品に接続できません。

◎WPA-PSK(TKIP/AES)：

「WPA-PSK」は、Windows XP(Service Pack1)に修正プログラムが適用されたパソコンで使用できる共有鍵認証方式です。暗号化方式は、「TKIP」と「AES」に対応しています。

※無線AP間通信機能を利用する場合、併せて使用できませんので、「WEP(RC4)/OCB AES」方式でご使用ください。

※SL-5200(弊社製無線LANカード)が装着されたWindows XP搭載のパソコンをご使用いただくと、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続から本製品に接続できます。

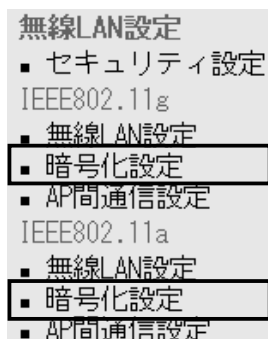
※「TKIP」と「AES」は、互換性がありません。

※「WEP(RC4)/OCB AES」とは、互換性がありません。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-3.「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定(つづき)



暗号化設定 [IEEE802.11g]
無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。
認証方式は暗号化方式が「RC4」以外の時は「オープンシステム」のみ設定可能です。

このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定	
認証モード	① 両対応
暗号化方式	② なし
PreSharedKey	③ <input type="text"/> 半角英数字で8-63文字、または16進数で64桁を入力。
Re-Key間隔	④ <input type="text"/> 分
キージェネレータ	⑤ <input type="text"/>
キーID	⑥ 1

③ PreSharedKey ……………

[暗号化方式]②欄で、「WPA-PSK(TKIP)」または「WPA-PSK(AES)」を選択したとき、暗号化鍵(キー)を半角英数字で入力します。

※同じ暗号化方式を使用する相手と同じ暗号化鍵(キー)を設定してください。

※16進数で設定するときは、64桁を入力してください。

※ASCII文字で設定するときは、8～63文字を入力してください。

※VLANで使用するとき、「無線LAN」画面にある[無線LAN設定]項目の[SSID]欄に設定した無線ネットワークグループが使用します。

④ Re-Key間隔 ……………

[WPA-PSK(TKIP)]、または[WPA-PSK(AES)]方式の暗号化を設定する場合、暗号化鍵(キー)の更新間隔を分単位で指定します。(出荷時の設定：1分)

設定できる範囲は、「0～1440」です。

※「0」を設定した場合は、更新されません。

⑤ キージェネレータ ……………

[暗号化方式]②欄で、「WEP RC4 64(40)」、「WEP RC4 128(104)」、「WEP RC4 152(128)」、「OCB AES 128(128)」を選択したとき、暗号化および復号に使う暗号化鍵(キー)を生成するための文字列を設定します。

通信を行う相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字/記号)を31文字以内で設定します。

なお、入力した文字はすべて「*」で表示します。(表示例：**)

[暗号化方式]を選択して、〈登録〉をクリックすると、[キージェネレータ]欄に入力した文字列より生成された鍵(キー)を[キー値]項目のテキストボックスに表示します。

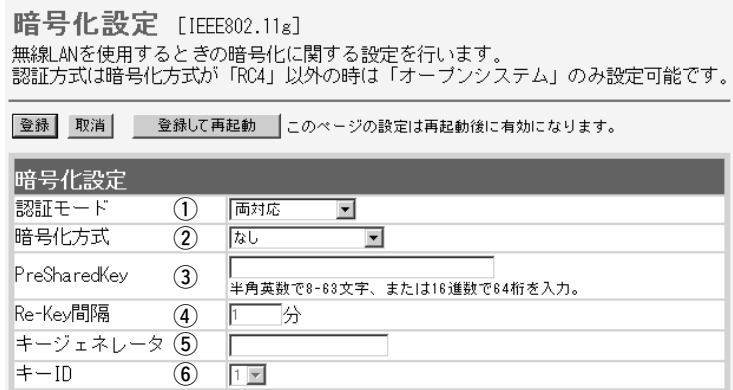
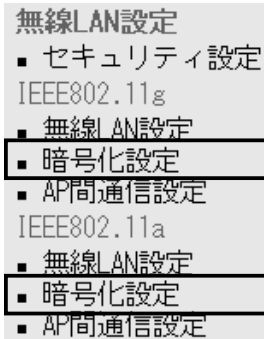
[キー値]項目の各キー番号のテキストボックスに生成される桁数および文字数は、選択する「暗号化方式」によって異なります。

(取扱説明書[導入編] 3-5章を参照)

☞次ページにつづく

2-3.「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定(つづき)



⑤ キージェネレータ(つづき)

- ※「WEP RC4」の場合、先頭の24ビットは、一定時間ごとに内容を自動更新して設定されますので、「キー値」項目のテキストボックスには表示されません。
- ※「キー値」項目の「入力モード」が「ASCII文字」に設定されている場合は、キージェネレータを使用できません。
- ※「暗号化方式」欄で「なし」が選択されていると、「キー値」項目の各キー番号のテキストボックスに鍵(キー)が生成されません。
- ※通信相手間で文字列が異なる場合、暗号化されたデータを復号できません。
- ※「キー値」項目から直接設定するときは、「キージェネレータ」欄には何も表示されません。

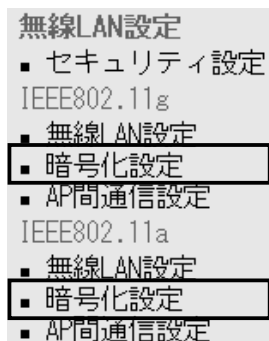
⑥ キーID

- 「暗号化方式」(②)欄で、「WEP RC4 64(40)」、「WEP RC4 128(104)」、「WEP RC4 152(128)」、「OCB AES 128(128)」を選択したとき、「キー値」項目の「1」～「4」に設定された暗号化鍵(キー)のうち送信データの暗号化に使用する鍵(キー)を、テキストボックスの番号で指定します。(出荷時の設定：1) 「1」～「4」に設定された暗号化鍵(キー)の内容が通信相手と同じであれば、通信する相手間で異なる番号を指定しても通信できます。
- ※仮想BSSを使用する場合は、「1」以外を設定してください。
 - ※本製品に無線LANで接続するパソコンの「キーID」を設定するとき、Windows XP(Service Pack適用時を除く)標準のワイヤレスネットワーク接続を使用する場合は、「キーID」の選択範囲が「0」～「3」で、本製品とは異なりますので、ご注意ください。本製品で「1」を選択した場合は、Windows XPの「キーインデックス(詳細)(X)」で「0」を設定するのと同じ意味になります。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-3.「暗号化設定」画面(つづき)

■ キー値



「WEP RC4」、または「OCB AES」方式の暗号化で使用する暗号化鍵(キー)の設定です。

キー値	
入力モード①	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字
1	00-00-00-00-00
2	00-00-00-00-00
3	00-00-00-00-00
4	00-00-00-00-00
③ デフォルトキー	00-00-00-00-00 仮想BSS使用時に有効

① 入力モード ……………

暗号化鍵(キー)の入力のしかたを選びます。

(出荷時の設定：16進数)

※入力モードを変更したときは、「暗号化設定」画面の〈登録〉ボタンをクリックしてから、暗号化鍵(キー)を入力してください。
※ASCII文字が設定されているときは、[暗号化設定]項目の[キージェネレータ]を使用できません。

② 鍵(キー)入力用ボックス …

キージェネレータを使用しない場合やASCII文字で入力するときは、暗号化および復号化に使用する鍵(キー)を、[入力モード]①欄で設定された方法で、直接入力します。

(出荷時の設定：00-00-00-00-00)

※16進数以外のアルファベットは、入力しても無効です。
※暗号化鍵(キー)は、通信する相手間で、すべての[キーID(1~4)]値に対して同じ内容に設定することをおすすめします。
異なる設定の場合、通信相手間で[キーID]値の設定が異なると、通信できないことがあります。

③ デフォルトキー ……………

※[無線LAN設定]項目の[Super A/Gを使用]欄で、「する(圧縮あり)」を設定している場合は、この設定を仮想BSSの通信に使用できません。

「ネットワーク設定」メニューの「LAN側IP設定」画面にある[VLAN ID設定]項目で、[VLANを使用]欄を「する」に設定し、仮想BSSで無線ネットワークグループを構成する場合、「無線LAN」画面にある[無線LAN設定]項目の[SSID]欄に設定した無線ネットワークグループが使用する仮想BSSで使用する暗号キーを設定します。
入力のしかたは、[鍵(キー)入力用ボックス]②と同じです。

※無線パソコン(例：Sales P24)で使用する弊社製設定ユーティリティの[キーID]欄は、「1」(出荷時の設定)に設定し、[キーID：1]の暗号化鍵(キー)を入力するテキストボックスには、[デフォルトキー]③欄と同じ暗号化鍵(キー)を設定してください。
※本製品の「暗号化設定」画面の[キー値]項目にある[2]~[4]の暗号化鍵(キー)は、無線パソコンで使用する弊社製設定ユーティリティの暗号化鍵(キー)を入力するテキストボックス[2]~[4]と同じ内容にしてください。

※16進数またはASCII文字で入力できます。

※キージェネレータには対応していません。

2-3.「暗号化設定」画面(つづき)

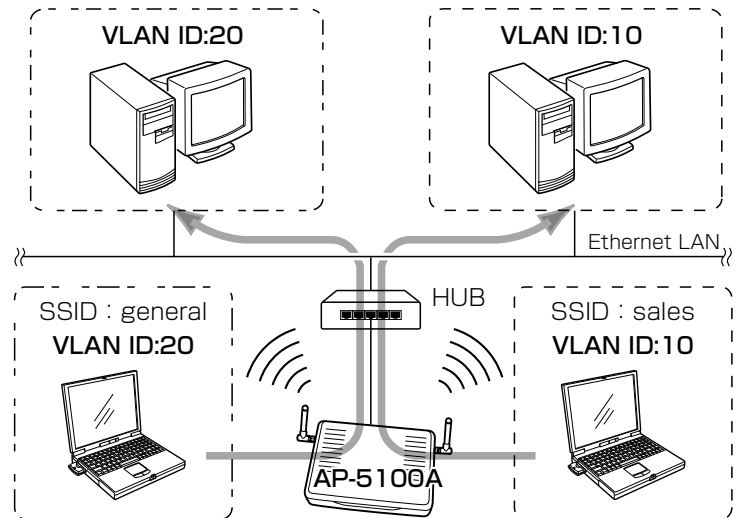
■ 仮想BSS設定

- 無線LAN設定
 - セキュリティ設定
 - IEEE802.11g
 - 無線LAN設定
 - 暗号化設定
 - AP間通信設定
 - IEEE802.11a
 - 無線LAN設定
 - 暗号化設定
 - AP間通信設定

本製品1台で、異なる[SSID]の無線グループを複数構成するとき使用します。

仮想BSS設定		追加
SSID	①	<input type="text"/>
VLAN ID	②	<input type="text"/>
暗号キー	③	<input type="text"/> 暗号化は無効です
PreSharedKey	④	<input type="text"/> 半角英数字で8-63文字、または16進数で64桁を入力。

※〈追加〉ボタンをクリックすると、設定した内容が[現在の登録]項目(☞P38)に表示され、最大16グループまで登録できます。
 ※有線ネットワーク側の[VLAN ID]は、VLAN機能搭載のHUBで設定しているものとします。



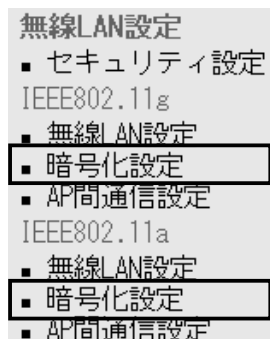
① SSID.....

仮想BSSで使用する無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。
 (設定例：general)
 この[SSID]が異なると本製品と仮想無線BSSで通信できません。
 大文字/小文字の区別にご注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
 ※「無線LAN設定」画面で設定されている[SSID](☞P23)と同じものは、登録できません。
 ※「無線LAN設定」画面で設定されている[SSID](☞P23)も、既存の無線グループ(例：sales)として使用できます。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-3. 「暗号化設定」画面

■ 仮想BSS設定(つづき)



仮想BSS設定		追加
SSID	①	<input type="text"/>
VLAN ID	②	<input type="text"/>
暗号キー	③	<input type="text"/> 暗号化は無効です
PreSharedKey	④	<input type="text"/> 半角英数で8-63文字、または16進数で64桁を入力。

② VLAN ID

※[VLAN ID]だけを使用しない場合は、仮想BSSとして使用できます。

[仮想BSS設定]項目で設定した[SSID](①)に所属する無線グループにID番号を設定します。

設定できる範囲は、「0～4094」です。

同じID番号のネットワークだけが、仮想BSSで通信できます。

※「0」を設定したときは、VLANタグを付けずに送出します。

※異なるID番号のネットワークとは通信できません。

※1つの[SSID]に対して、複数のID番号は登録できません。

※同じ番号の[VLAN ID]を複数の異なる[SSID]に登録できます。

※設定したID番号は、「ネットワーク設定」メニューの「LAN側IP設定」画面にある[VLAN ID設定]項目で、「VLANを使用」欄を「する」に設定すると有効になります。(P6)

③ 暗号キー

上記画面で設定した[SSID]の無線グループで、「WEP RC4」、または「OCB AES」方式の暗号化で使用する暗号化鍵(キー)を設定します。

※仮想BSS設定で、暗号化を使用する場合は、「暗号化設定」画面の[暗号化設定]項目にある[キーID]欄を「1」(出荷時の設定)以外に変更しないと通信できません。

※無線パソコン(例：General P35)で使用する弊社製無線LANカード(例：SL-5200)に付属の設定ユーティリティーで、[キーID]欄は、「1」(出荷時の設定)に設定し、[キーID：1]の暗号化鍵(キー)を入力するテキストボックスには、[暗号キー](③)欄と同じ暗号化鍵(キー)を設定してください。

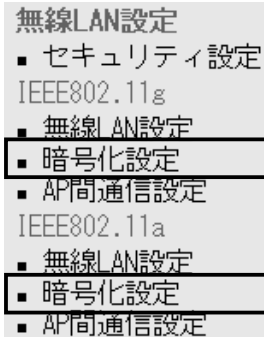
※本製品の「暗号化設定」画面の[キー値]項目にある[2]～[4]の暗号化鍵(キー)は、無線パソコンで使用する弊社製設定ユーティリティーの暗号化鍵(キー)を入力するテキストボックス[2]～[4]と同じ内容にしてください。

※無線パソコンとして、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続をご使用の場合は、[PreSharedKey](④)欄をご使用ください。

※[無線LAN設定]項目の[Super A/Gを使用]欄で、「する(圧縮あり)」を設定している場合は、この設定を仮想BSSの通信に使用できません。

2-3.「暗号化設定」画面

■ 仮想BSS設定(つづき)



仮想BSS設定		追加
SSID	①	<input type="text"/>
VLAN ID	②	<input type="text"/>
暗号キー	③	<input type="text"/> 暗号化は無効です
PreSharedKey	④	<input type="text"/> 半角英数で8-63文字、または16進数で64桁を入力。

④ PreSharedKey

上記画面で設定した[SSID]の無線グループで、「WPA-PSK(TKIP)」,または「WPA-PSK(AES)」方式の暗号化で使用する暗号化鍵(キー)を半角英数字で入力します。

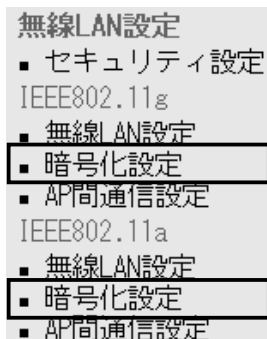
※無線パソコンからの接続には、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用します。

※無線パソコンに弊社製無線LANカード(例：SL-5200)に付属の設定ユーティリティーをご使用の場合は、[暗号キー](③)欄をご使用ください。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-3.「暗号化設定」画面(つづき)

■現在の登録



[仮想BSS設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録		③	④	⑤	⑥
①	②	SSID	VLAN ID	暗号キー	PreSharedKey
編集	削除	5100	30	5B-1E-7E-9D-78	
編集	削除	general	20	00-00-00-00-00	wavemaster

- ①<編集> ボタン …………… [仮想BSS設定]項目で設定した登録(ボタンの右側に表示されている)内容を編集します。
クリックすると、登録内容が、[仮想BSS設定]項目の各設定欄に移行します。
※再登録するときは、暗号化方式の設定を確認してください。
- ②<取消> ボタン …………… [仮想BSS設定]項目で設定した登録(ボタンの右側に表示されている)内容を削除します。
- ③ SSID …………… [仮想BSS設定]項目の[SSID]欄で設定した内容を表示します。
- ④ VLAN ID …………… [仮想BSS設定]項目の[VLAN ID]欄で設定した内容を表示します。
設定されていないときは、「-」を表示します。
- ⑤ 暗号キー …………… [仮想BSS設定]項目の[暗号キー]欄で設定した内容を表示します。
設定されていないときは、「00-00-00-00-00」(入力モードが16進数の場合)を表示します。
「暗号化設定」画面の[暗号化設定]項目にある[暗号化方式]欄で、暗号化方式や暗号化ビット数を変更すると、変更前に登録した無線端末の暗号化キーも併せて初期化(表示例：00-00-00-00-00)されますので、再登録が必要になります。
- ⑥ PreSharedKey…………… [仮想BSS設定]項目の[PreSharedkey]欄で設定した内容を表示します。

2-3.「暗号化設定」画面(つづき)

■ 設定例について

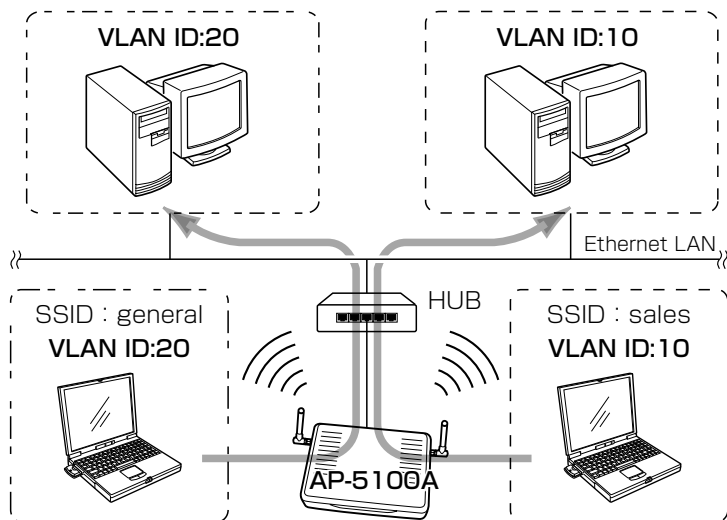
【設定条件】

- ◎[IEEE802.11g]規格の無線LANを使用します。
- ◎[SSID]が「sales」の無線グループは、〈無線VLAN設定〉(P40~41)の手順で設定します。
- ◎[SSID]が「general」の無線グループは、〈仮想BSS設定〉(P42)の手順で設定します。

[WPA-PSK(TKIP/AES)]暗号化を使用する場合について、41~42ページで併せて説明しています。

無線VLAN設定と仮想BSS設定を併せて使用する場合は、下記の図を例に説明します。

※有線ネットワーク側の[VLAN ID]は、VLAN機能搭載のHUBで設定しているものとします。



【暗号化鍵の設定例】

本製品と各無線通信するグループとの暗号化鍵(キー)などの設定は、下記の条件で設定します。

- ◎[暗号化方式] : 「WEP RC4 64(40)」
- ◎[入力方式] : 「16進数」
- ◎[キーID] : 「2」(AP-5100A側)
- ※仮想BSSで使用する場合は、本製品の[キーID]は、「1」以外(例: 2)に設定します。
- [キーID] : 「1」(無線クライアント: 「sales」/「general」側)
- ※無線クライアントの[キーID]は、「1」を設定します。
- ◎[キーID]が「2」~「4」に対する暗号化鍵(キー)は、本製品と無線クライアント側ですべて同じに設定してください。

〈AP-5100A側〉	
キーID	鍵(キー)
1	00-00-00-00-00
②	0E-C4-7B-1A-EA
3	00-00-00-00-00
4	00-00-00-00-00
デフォルトキー	
	CO-1E-63-FF-FF
仮想BSSの暗号キー	
	06-67-93-34-56

〈無線クライアント側〉			
〈sales〉		〈general〉	
キーID	鍵(キー)	キーID	鍵(キー)
①	CO-1E-63-FF-FF	①	06-67-93-34-56
2	0E-C4-7B-1A-EA	2	0E-C4-7B-1A-EA
3	00-00-00-00-00	3	00-00-00-00-00
4	00-00-00-00-00	4	00-00-00-00-00

無線クライアント側は、無弊社製線LANカードに付属の設定ユーティリティで、[キーID]、「2」~「4」のテキストボックスのどれか1つ(例: 2)に、本製品の[キーID](例: 2)のテキストボックスに設定した鍵(キー)と同じものを入力します。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-3.「暗号化設定」画面

■ 設定例について(つづき)

〈無線VLANの設定〉

無線VLANを使用する無線グループに対する設定です。

1. 「LAN側IP設定」画面の[VLAN設定]項目にある[VLANを使用]欄を「する」に設定します。

※[マネージメントID]欄は、「0~4094」(入力例：5)の範囲でIDを設定します。(「0」を設定すると、タグは付きません。)

2. 〈登録〉ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'LAN側IP設定' (LAN Side IP Setting) screen. The left sidebar has a menu with 'LAN側IP設定' selected. The main area has a '登録' (Register) button highlighted. The 'VLAN設定' (VLAN Setting) section has 'VLANを使用' (Use VLAN) set to 'する' (Yes) and 'マネージメントID' (Management ID) set to '5'. A callout box points to the 'VLANを使用' field with the text: 「0~4094」の範囲で設定します。 (Set within the range of 0~4094).

1. クリック → ネットワーク設定

4. クリック → 登録

2. クリック → VLAN設定

3. 入力する → マネージメントID

3. [IEEE802.11g]規格側の「無線LAN設定」画面で、[SSID]欄を「sales」に設定します。

4. この画面で設定した[SSID](例：sales)で使用する[VLAN ID]を「10」に設定します。

5. 〈登録〉ボタンをクリックします。

The screenshot shows the '無線LAN設定 [IEEE802.11g]' (Wireless LAN Setting [IEEE802.11g]) screen. The left sidebar has a menu with '無線LAN設定' selected. The main area has a '登録' (Register) button highlighted. The '無線LAN設定' section has 'IEEE802.11gを使用' (Use IEEE802.11g) set to 'する' (Yes), 'SSID' set to 'sales', and 'VLAN ID' set to '10'. Callouts point to the '無線LAN設定' menu item, the '登録' button, the 'SSID' field, and the 'VLAN ID' field.

5. クリック → 無線LAN設定

1. クリック → 登録

2. クリック → SSID

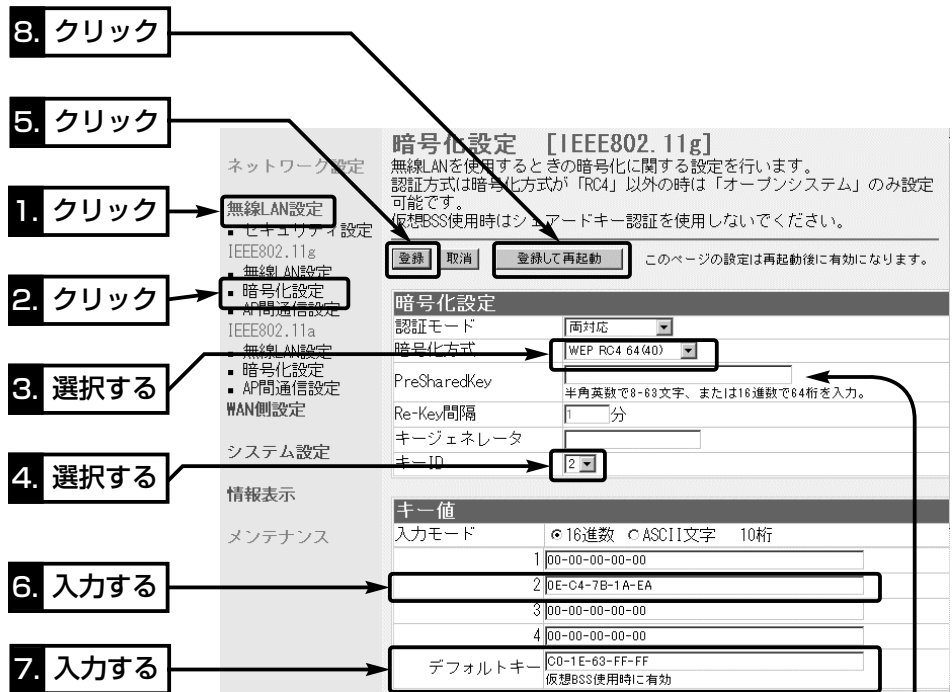
3. 入力する → VLAN ID

4. 入力する → 登録

2-3.「暗号化設定」画面

■ 設定例について 〈無線VLANの設定〉 (つづき)

6. [IEEE802.11g]規格側の「暗号化設定」画面にある[暗号化設定]項目で、[暗号化方式]欄を[WEP RC4 64(40)]に設定します。
7. [キーID]欄を「2」に設定します。
 ※仮想BSSIDを使用しますので、「1」を[キーID]に設定しないでください。
 ※無線クライアント側の[キーID]には、「1」を設定します。
8. 〈登録〉ボタンをクリックします。
 - [キー値]項目にある「1」～「4」と「デフォルトキー」のテキストボックスに「00-00-00-00-00」と表示されます。
9. 暗号化鍵(キー)を[キー値]項目にある「2」のテキストボックスに入力します。
 ※無線クライアント側の[キーID]が「2」のテキストボックスにも同じ暗号化鍵(キー)を設定します。
10. 無線VLANで使用する暗号化鍵(キー)を[キー値]項目にある「デフォルトキー」のテキストボックスに入力します。
 ※無線クライアント(Sales)側の[キーID]が「1」のテキストボックスにも同じ暗号化鍵(キー)を設定します。
11. 〈登録して再起動〉ボタンをクリックします。



[WPA-PSK(TKIP/AES)]暗号化を使用する場合

[WPA-PSK(TKIP/AES)]暗号化方式の場合は、[暗号化設定]項目の[PreSharedKey]欄に、無線クライアント側(例：sales)と同じ[PreSharedKey]を入力します。
 この場合、[キーID]欄と[キー値]項目の設定は不要です。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-3.「暗号化設定」画面

■ 設定例について(つづき)

〈仮想BSSの設定〉

仮想BSSで[VLAN ID]を使用する無線グループに対する設定です。

- 1.[IEEE802.11g]規格側の「暗号化設定」画面にある[仮想BSS設定]項目で、[SSID]欄を「general」と入力します。
- 2.[VLAN ID]欄を「20」に設定します。
- 3.仮想BSSで使用する暗号化鍵(キー)を[暗号キー]欄のテキストボックスに入力します。
※無線クライアント(general)側の[キーID]が「1」のテキストボックスにも同じ暗号化鍵(キー)を設定します。
- 4.〈追加〉ボタンをクリックします。
 - 登録した内容は、[現在の登録]項目に表示します。
- 5.〈登録して再起動〉ボタンをクリックします。
※[キーID：2]のテキストボックスに入力された暗号化鍵(キー)と同じものが、無線クライアント側の[キーID：2~4]のどれか1つのテキストボックス(例：「2」※P39)に設定されていることを確認します。

6. クリック

1. クリック

2. クリック

4. クリック

3. 入力する

5. 確認する

暗号化設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。
認証方式は暗号化方式が「RC4」以外の時は「オープンシステム」のみ設定可能です。
仮想BSS使用時はシェアードキー認証を使用しないでください。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定
認証モード 両対応

〈画面中略〉

システム設定

情報表示

メンテナンス

仮想BSS設定 追加

SSID general

VLAN ID 20

暗号キー 06-67-93-34-56 16進数 10桁

PreSharedKey
半角英数字で8-63文字、または16進数で64桁を入力。

現在の登録

	SSID	VLAN ID	暗号キー	PreSharedKey
編集	general	20	06-67-93-34-56	

[WPA-PSK(TKIP/AES)]暗号化を使用する場合

[WPA-PSK(TKIP/AES)]暗号化方式の場合は、[仮想BSS設定]項目の[PreSharedKey]欄に、無線クライアント側(例：general)と同じ[PreSharedKey]を入力します。
この場合、[暗号キー]欄の設定は不要です。

2-4.「AP間通信設定」画面

■ IEEE802.11g BSSID

無線LAN設定

- セキュリティ設定

IEEE802.11g

- 無線LAN設定
- 暗号化設定

■ AP間通信設定

IEEE802.11a

- 無線LAN設定
- 暗号化設定

■ AP間通信設定

本製品に内蔵する54Mbps(2.4GHz帯)無線LANカードの[BSSID]を表示します。

AP間通信設定 [IEEE802.11g]

AP間通信(Wireless Bridge)機能の設定を行います。

IEEE802.11g BSSID

00-90-C7-6D-00-10

画面に表示された[BSSID]を相手側のAP-5100Aに登録します。また、本製品には相手側の[BSSID]を「通信AP設定」に登録します。※「ユニットを使用していません」と表示されるときは、「無線LAN設定」画面の[IEEE802.11gを使用]欄を、「する」に設定してください。

※[IEEE802.11a]規格側の画面の場合は、本製品に内蔵する54Mbps(5.2GHz帯)無線LANカードの[BSSID]を表示します。

2 「無線LAN設定」メニュー

2-4.「AP間通信設定」画面(つづき)

■ 通信AP設定

54Mbps(5.2GHz帯)でAP間通信するとき設定します。

無線LAN設定
■ セキュリティ設定
IEEE802.11g
■ 無線LAN設定
■ 暗号化設定
■ AP間通信設定
IEEE802.11a
■ 無線LAN設定
■ 暗号化設定
■ AP間通信設定

通信AP設定	
登録の追加 ①	
BSSID	<input type="text"/>
	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録 ②	
BSSID	<input type="text"/>

※54Mbps(5.2GHz帯)でAP間通信するとは、[IEEE802.11a]規格側の[通信AP設定]項目で設定してください。

① 登録の追加

AP間通信する相手(AP-5100A)の[BSSID]を入力します。

※〈追加〉をクリックすると、入力した[BSSID]が有効になります。

※最大6台分の[BSSID]が登録できます。

※[BSSID]の入力は、半角英数字で12桁(16進数)を入力します。

※[BSSID]を次のように入力すると、同じ[BSSID]として処理します。

(入力例：00-90-c7-88-00-30、0090c7880030)

② 現在の登録

本製品に登録されている[BSSID]を表示します。

この欄に登録されている[BSSID]を持つ機器と本製品のあいだでAP間通信できます。

【登録例】

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

現在の登録	
BSSID	<input type="text"/>
00-90-C7-6D-00-30	<input type="button" value="削除"/>

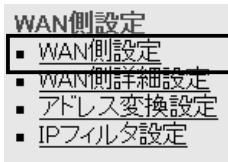
この章では、
「WAN側設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

3-1.「WAN側設定」画面	46
■ 接続状況	46
■ 回線種別	47
■ 回線設定PPPoE/DHCP	48
■ 接続設定	49
3-2.「WAN側詳細設定」画面	50
■ 共通詳細設定	50
■ PPPoE詳細設定	52
3-3.「アドレス変換設定」画面	53
■ アドレス変換設定	53
■ パススルー設定	53
■ 静的マスカレードテーブル設定	54
■ DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い	54
■ 静的NATテーブル設定	55
3-4.「IPフィルタ設定」画面	56
■ 不正アクセス検知機能設定	56
■ IPフィルタ設定	58
■ 現在の登録	62

3 「WAN側設定」メニュー

3-1. 「WAN側設定」画面

■ 接続状況



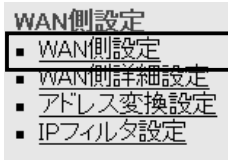
登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況	
接続中 ①	<input type="button" value="接続"/> <input type="button" value="切断"/>
回線種別 ②	DHCP
DNSサーバ ③	
本体側のIPアドレス ④	
相手先のIPアドレス ⑤	
接続時間 ⑥	0時間 4分 18秒

- ① 未接続/接続中…………… WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続中」で表示します。
[回線種別]項目で、「接続しない」が設定されているときは、
〈接続〉 / 〈切断〉 ボタンは表示しません。
手動で回線を接続したり、切断するときは、このボタンをクリックします。
- ② 回線種別…………… 現在本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
設定されている接続方式および方法に応じて「PPPoE(手動接続)」、
「PPPoE(自動接続)」、「PPPoE(常時接続)」、「DHCP」のいずれか
を表示します。
- ③ DNSサーバ…………… 「DHCP」/「PPPoE」/「PPPoE複数固定IP」のいずれかが設定され
ている場合、契約されているプロバイダーのDNSサーバIPアドレ
スを表示します。
- ④ 本体側のIPアドレス…………… 「DHCP」/「PPPoE」/「PPPoE複数固定IP」のいずれかが設定され
ている場合、本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示しま
す。
- ⑤ 相手先のIPアドレス…………… 「DHCP」/「PPPoE」/「PPPoE複数固定IP」のいずれかが設定され
ている場合、契約されているプロバイダーのIPアドレスを表示し
ます。
- ⑥ 接続時間…………… ご契約されているプロバイダーに接続してから、この画面にアク
セスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、「WAN側設定」メニューで
「WAN側設定」をクリックします。

3-1. 「WAN側設定」画面(つづき)

■ 回線種別



本製品の回線種別についての設定です。



〈登録〉ボタン ……………

[回線種別]項目以外の設定内容が有効になります。
 ※[回線種別]項目を変更した場合は、画面上で確定されますが、
 〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………

「WAN側設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

「WAN側設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
 ※[回線種別]項目を変更した場合は、本製品を再起動します。

回線種別 ……………

本製品で使用する回線種別を選択します。

◎接続しない(出荷時の設定)

ルータタイプモデムと接続する場合など、回線を本製品のWAN側ポートに接続しない場合で、本製品を無線アクセスポイントとして使用するとき設定します。

※アッカネットワークスやイー・アクセス、IP電話サービス対応のフレッツ・ADSLをご契約の場合に該当します。

◎DHCP

回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約のプロバイダーや接続業者から「DHCP」方式で取得します。

※CATVやYAHOO! BBをご契約の場合に該当します。

◎PPPoE

回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約のプロバイダーや接続業者から「PPPoE」方式で取得します。

※Bフレッツやフレッツ・ADSLをご契約の場合に該当します。

◎PPPoE複数固定IP

回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、ご契約のプロバイダーや接続業者から割り当てられた複数のIPアドレスのうち1つを本製品のWAN側IPアドレスに設定し、残りは本製品のLAN側に接続されたパソコンに直接割り当てて使用するとき、設定します。

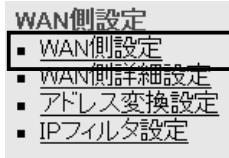
割り当てられた複数のIPアドレスの使いかたについては、「複数固定IPを使う」(☞6-1章)をご覧ください。

3 「WAN側設定」メニュー

3-1. 「WAN側設定」画面(つづき)

■ 回線設定 PPPoE/DHCP

本製品のWAN側についての設定です。



回線設定 PPPoE	
接続先名 ①	<input type="text"/>
IPアドレス ②	<input type="text"/>
サブネットマスク ③	<input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ ④	<input type="text"/>
プライマリDNSサーバ ⑤	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ ⑥	<input type="text"/>

固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。

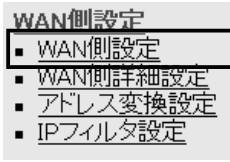
※回線種別を「PPPoE」に設定時の画面を例に説明しています。

※回線種別を「接続しない」に設定時は、表示されません。

- ① 接続先名 ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
- ② IPアドレス ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ③ サブネットマスク ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ④ デフォルトゲートウェイ ... ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑤ プライマリDNSサーバ プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
- ⑥ セカンダリDNSサーバ プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

3-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■ 接続設定



接続先からの指定に応じて入力します。

接続設定	
ユーザID	⑦ <input type="text"/>
パスワード	⑧ <input type="text"/>
認証プロトコル	⑨ 相手に合わせる ▼

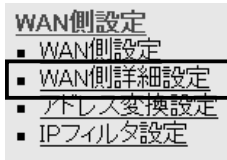
※回線種別を「接続しない」/「DHCP」設定時は、表示されません。

- ⑦ ユーザID プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して、入力します。
- ⑧ パスワード プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して、入力します。
- ⑨ 認証プロトコル ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定された認証プロトコルを設定します。
指定のない場合は、「相手に合わせる」(出荷時の設定)でご使用ください。

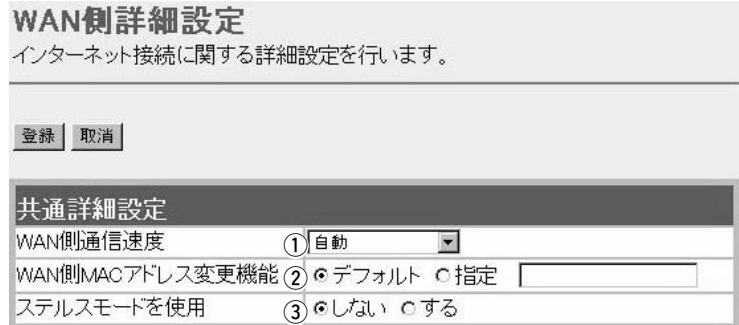
3 「WAN側設定」メニュー

3-2.「WAN側詳細設定」画面

■ 共通詳細設定



本製品のWAN側回線に共通する詳細設定です。

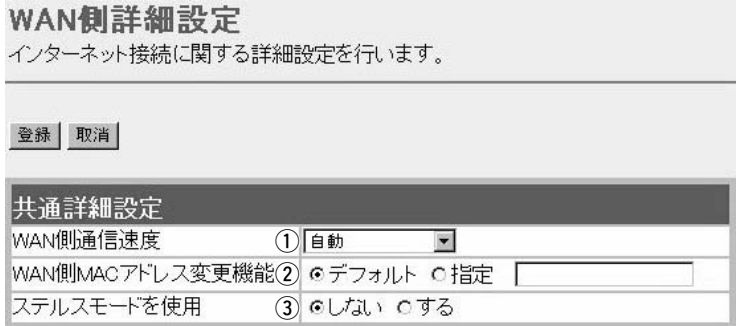
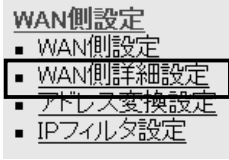


※回線種別を「接続しない」/「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目だけ表示されます。

- 〈登録〉ボタン 「WAN側詳細設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン 「WAN側詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① WAN側通信速度 本製品とLANケーブルで接続された機器間のリンクスピードの設定です。 (出荷時の設定：自動)
◎自動：本製品の[WAN]ポートに接続されている機器の通信速度に合わせて自動で設定されます。
◎100(Half Duplex)
[100Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[100Mbps(Half Duplex)]に対応しているとき設定できます。
◎100(Full Duplex)
[100Mbps(Full Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続している機器が、[100Mbps(Full Duplex)]に対応しているとき設定できます。
◎10(Half Duplex)
[10Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[10Mbps/Half Duplex]に対応しているとき設定できません。
◎10(Full Duplex)
[10Mbps(Full Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[10Mbps/Full Duplex]に対応しているとき設定できません。

3-2.「WAN側詳細設定」画面

■ 共通詳細設定(つづき)



※回線種別を「接続しない」/「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目だけ表示されます。

② WAN側MACアドレス
変更機能

MACアドレス申請が必要なプロバイダーで、すでにインターネットをご使用の場合、プロバイダーに申請されているMACアドレスを入力できます。(出荷時の設定：デフォルト)
申請しているMACアドレスを入力したときは、「指定」のラジオボタンをクリックしてから「登録」をクリックします。

△警告

この機能をご利用になるときは、申請されているMACアドレスをよく確認していただき、設定値を間違えないように注意してください。

設定値を誤ってご使用になられた場合によって生じる結果については一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

③ ステルスモードを使用

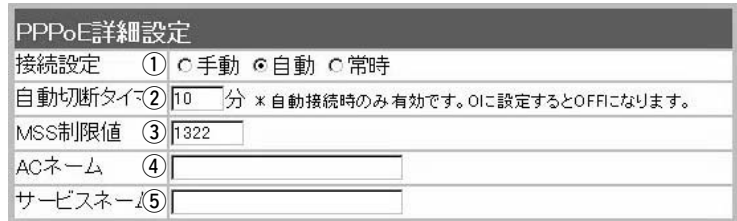
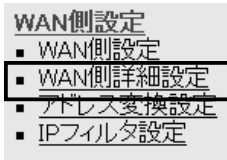
インターネットを使用して本製品に不正アクセスされた場合、Pingやポートスキャンに対して防御するかしないかの設定です。(出荷時の設定：しない)

3 「WAN側設定」メニュー

3-2. 「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■ PPPoE詳細設定

「PPPoE」で使用する時設定します。

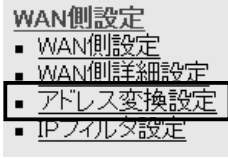


※回線種別を「接続しない」/「DHCP」設定時は、表示されません。

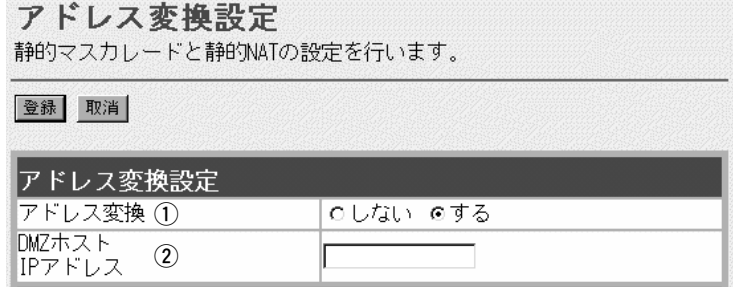
- ① 接続設定 「PPPoE」回線への接続方法を選択します。(出荷時の設定：自動)
◎手動：「WAN側設定」画面の〈接続〉/〈切断〉ボタンで、回線を強制的に接続/切断します。
◎自動：パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的に接続します。
◎常時：常時接続します。
本製品で指定した接続先(WAN側)と常に接続状態を保持します。
- ② 自動切断タイマ [接続設定]①欄で「自動」を設定している場合、WAN側への送出パケットがなくなってから回線を切断するまでの時間を入力します。(出荷時の設定：10)
設定できる範囲は、「0(自動切断しない)~65535(分)」です。
- ③ MSS制限値 プロバイダーから指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。(出荷時の設定：1322)
設定できる範囲は、「536~1452」です。
MSS値とは、受信できる最大セグメント数のことです。
一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほど良いとされています。
しかし、[PPPoE]回線のMTUは、通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいため、MSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますので、ご注意ください。
- ④ ACネーム プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のACネーム(アクセスコンセントレーター名)を入力します。
- ⑤ サービスネーム プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のサービスネームを入力します。

3-3.「アドレス変換設定」画面

■ アドレス変換設定



アドレス変換機能を設定します。



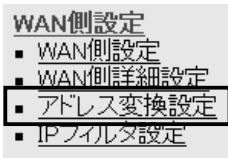
〈登録〉ボタン 「アドレス変換設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン 「アドレス変換設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① アドレス変換 静的マスカレード機能、静的NAT機能を使用して、指定したグローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかどうかを選択します。
 (出荷時の設定：する)

② DMZホストIPアドレス DMZホスト機能(非武装セグメント)の対象となるパソコン(ホスト)のIPアドレスを入力します。
 DMZホスト機能を使うと、WAN(インターネット)側から発信されたすべてのIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。
 転送することにより、本製品のLAN側に存在するパソコンでWWWサーバを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどが行えますが、転送先に設定したパソコンのIPアドレスに対してセキュリティが低下しますので、ご使用には十分注意してください。
 ※DMZホスト機能を静的マスカレードテーブルや静的NATテーブルと同時に使用した場合は、静的マスカレードテーブルおよび静的NATテーブルの設定が優先されます。

■ パススルー設定



インターネット経由で社内LANの仮想プライベートネットワーク(VPN)サーバにアクセスするとき設定します。

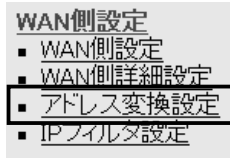


PPTPパススルーを使用 マルチプロトコル仮想プライベートネットワーク(VPN)をサポートするネットワーク技術で、クライアントからのPPTPパケットをWAN側に転送するかどうかの設定です。
 ※使用例については、本書6-3章を参考に、パソコンを設定してください。
 (出荷時の設定：する)

3 「WAN側設定」メニュー

3-3.「アドレス変換設定」画面(つづき)

■ 静的マスカレードテーブル設定



IPマスカレード変換を静的に行う設定です。

静的マスカレードテーブル設定				
登録の追加				
ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート	終了ポート
<input type="text"/>	TCP	指定	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="追加"/>				
現在の登録				
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	

マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

- ◎ローカルIP：プライベートIPアドレスを入力します。
 - ◎プロトコル：TCP、UDP、TCP/UDP、GREから選択します。
 - ◎ポート：選択したプロトコルに対するポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
 - ◎開始ポート：プロトコルに対する開始ポート番号を入力します。
 - ◎終了ポート：プロトコルに対する終了ポート番号を入力します。
- ※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

■ DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い

DMZホスト機能	静的マスカレード機能
プロトコルやポート番号の指定が不要。	プロトコルやポート番号の指定が必要。
転送先として指定できるホストのIPアドレスは、1つだけである。	異なるプロトコルやポート番号ごとに、複数の転送先を設定できる。
転送先の変更が容易にできる。	転送先は、プロトコルやポート番号ごとに指定されているため、変更が複雑である。
転送先に指定したホストについては、セキュリティが低下する。	静的マスカレードテーブルに登録していないプロトコルやポート番号は、遮断される。

3-3.「アドレス変換設定」画面(つづき)

■ 静的NATテーブル設定

- WAN側設定
 - WAN側設定
 - WAN側詳細設定
 - **アドレス変換設定**
 - IPフィルタ設定

グローバルとプライベートのIPアドレス変換を行う設定です。

静的NATテーブル設定			
登録の追加			
グローバルIP	-	ローカルIP	
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
グローバルIP	-	ローカルIP	

プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。

最大32個のNATテーブルを設定できます。

◎グローバルIP：指定されたグローバルIPアドレスを入力します。

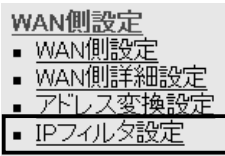
◎ローカルIP：任意のプライベートIPアドレスを入力します。

※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

3 「WAN側設定」メニュー

3-4.「IPフィルタ設定」画面

■不正アクセス検知機能設定



WAN側回線から本製品に不正な攻撃を受けたことを検知してIPフィルターの手前で阻止する機能を設定します。

IPフィルタ設定

IPフィルタの設定を行います。

不正アクセス検知機能設定	
不正アクセス検知機能を使用 ①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
検知結果を出力 ②	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
検知時間 ③	<input type="text" value="1"/> 分
検知回数 ④	<input type="text" value="100"/> 回

〈登録〉ボタン …………… 「不正アクセス検知機能設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………… 「不正アクセス検知機能設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお 〈登録〉 をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① 不正アクセス検知機能を使用 …………… 不正アクセス検知機能を使用するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)

検知できる内容は以下の通りです。

- ◎IP Spoofing …… 偽りのLAN側アドレスでパケットを受けたとき
- ◎Land attack …… 始点IPアドレスと終点IPアドレスが同じパケットを受けたとき
- ◎TCP Syn Flooding …… 設定した[検知時間]以内に設定した[検知回数]より多い接続要求(SYN)を受けたとき
- ◎Tiny Fragmenting …… Tiny fragment attack(RFC 1858で定義)を受けたとき
- ◎Source Routing …… Loose routing IP optを検出したとき
Loose source routing headerを受けたとき
Strict routing IP optを検出したとき
Strict source routing headerを受けたとき

② 検知結果を出力 …………… 不正アクセスを検知したとき、検知結果を「情報表示」メニューの「通信記録」画面に表示するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)

※このときの「通信記録」画面表示例は、5-1章をご覧ください。

3-4.「IPフィルタ設定」画面

■ 不正アクセス検知機能設定(つづき)

- WAN側設定
 - WAN側設定
 - WAN側詳細設定
 - アドレス変換設定
 - IPフィルタ設定

IPフィルタ設定

IPフィルタの設定を行います。

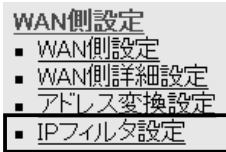
不正アクセス検知機能設定		
不正アクセス検知機能を使用	①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
検知結果を出力	②	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
検知時間	③	1 <input type="text"/> 分
検知回数	④	100 <input type="text"/> 回

- ③ 検知時間 「TCP Syn Flooding」を検知する時間を設定します。
 設定できる範囲は、「1～60(分)」です。 (出荷時の設定：1)
- ④ 検知回数 「TCP Syn Flooding」を検知する回数を設定します。
 [検知時間](③)欄で設定した時間内に設定回数以上のアクセスを検知すると、不正アクセスと判断します。
 設定できる範囲は、「5～999(回)」です。 (出荷時の設定：100)

3 「WAN側設定」メニュー

3-4.「IPフィルタ設定」画面(つづき)

■ IPフィルタ設定



特定条件を満たす内部または外部からのパケットを通過させたり、通過を阻止させるフィルタの設定です。

IPフィルタ設定		追加
番号	①	<input type="text"/>
フィルタ方向	②	<input type="radio"/> WAN側から <input checked="" type="radio"/> LAN側から <input type="radio"/> 両方
フィルタ方法	③	<input checked="" type="radio"/> 遮断 <input type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 透過(接続中)
プロトコル	④	すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
発信元ポート番号	⑤	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑥	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
発信元IPアドレス	⑦	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑧	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>

〈追加〉ボタン

[IPフィルタ設定]項目で作成、または編集した内容をフィルタとして追加するボタンです。

追加されると、その内容を[現在の登録]項目に一覧で表示します。

※フィルタ条件は、1つ以上指定してください。

① 番号

最大64件のフィルタを登録できます。

入力できる範囲は、「1~64」です。

フィルタを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに、[現在の登録]項目に表示されたフィルタと比較します。

[番号]欄では、フィルタを比較する順位を指定します。

フィルタを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。

フィルタの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルタは比較しません。

② フィルタ方向

パケットの通信方向で、本製品のWAN側とLAN側に対して、フィルタの対象となる方向を設定します。

以下の中から選択してください。

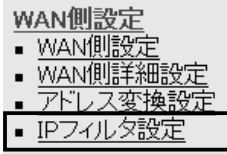
◎WAN側から：WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、アドレス変換のあとにフィルタリング処理をします。

◎LAN側から：本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、アドレス変換の前にフィルタリング処理をします。

◎両方：本製品からWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理をします。

3-4.「IPフィルタ設定」画面

■ IPフィルタ設定(つづき)



IPフィルタ設定		追加
番号	①	<input type="text"/>
フィルタ方向	②	<input type="radio"/> WAN側から <input checked="" type="radio"/> LAN側から <input type="radio"/> 両方
フィルタ方法	③	<input checked="" type="radio"/> 遮断 <input type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 透過(接続中)
プロトコル	④	すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
発信元ポート番号	⑤	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑥	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
発信元IPアドレス	⑦	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑧	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>

③ フィルタ方法

フィルタリングの方法は、以下の3通りから選択します。

- ◎遮断 : 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- ◎透過 : 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- ◎透過(接続中) : 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。
このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

④ プロトコル

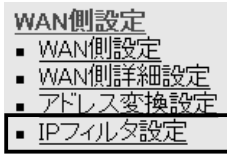
フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ◎指定 : 右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、10進数で0~255までの半角数字を入力してください。
- ◎すべて : すべてのプロトコルの条件に一致します。
- ◎TCP : TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- ◎TCP_FIN : TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- ◎TCP_EST : TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- ◎UDP : UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ◎ICMP : ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- ◎GRE : GREプロトコルの条件だけに一致します。

3 「WAN側設定」メニュー

3-4.「IPフィルタ設定」画面

■ IPフィルタ設定(つづき)



IPフィルタ設定		追加
番号	①	<input type="text"/>
フィルタ方向	②	<input type="radio"/> WAN側から <input checked="" type="radio"/> LAN側から <input type="radio"/> 両方
フィルタ方法	③	<input checked="" type="radio"/> 遮断 <input type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 透過(接続中)
プロトコル	④	すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
発信元ポート番号	⑤	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑥	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
発信元IPアドレス	⑦	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑧	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>

⑤ 発信元ポート番号 ……………

フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。

数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。

入力できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。

数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。

⑥ 宛先ポート番号 ……………

フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。

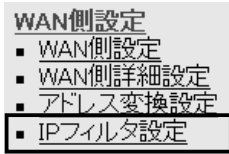
数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。

入力できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。

数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。

3-4.「IPフィルタ設定」画面

■ IPフィルタ設定(つづき)



IPフィルタ設定		追加
番号	①	<input type="text"/>
フィルタ方向	②	<input type="radio"/> WAN側から <input checked="" type="radio"/> LAN側から <input type="radio"/> 両方
フィルタ方法	③	<input checked="" type="radio"/> 遮断 <input type="radio"/> 透過 <input type="radio"/> 透過(接続中)
プロトコル	④	すべて <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/>
発信元ポート番号	⑤	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑥	指定 <input type="text"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
発信元IPアドレス	⑦	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑧	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>

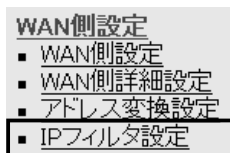
⑦ 発信元IPアドレス …………… 発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
発信元ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

⑧ 宛先IPアドレス …………… 宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
宛先ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

3 「WAN側設定」メニュー

3-4.「IPフィルタ設定」画面(つづき)

■ 現在の登録



現在の登録		番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス
編集	削除	57	WAN側から	透過	TCP	20	*	*	*
編集	削除	58	WAN側から	遮断	TCP_EST	*	*	*	*
編集	削除	59	両方	遮断	ALL	135	*	*	*
編集	削除	60	両方	遮断	ALL	*	135	*	*
編集	削除	61	両方	遮断	ALL	445	*	*	*
編集	削除	62	両方	遮断	ALL	*	445	*	*
編集	削除	63	両方	遮断	TCP	*	137 - 139	*	*
編集	削除	64	両方	遮断	UDP	137 - 139	137 - 139	*	*

現在登録されているIPフィルターを表示します。

【出荷時、登録されているフィルターについて】

- ◎57番 : FTPをデフォルトで通過させる
- ◎58番 : WAN側からの不正パケット防止
- ◎59～64番 : Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性を防止

〈編集〉ボタン

〈編集〉ボタンの右の欄に表示されたIPフィルターを編集するボタンです。

編集する欄の〈編集〉ボタンをクリックすると、その内容を「IPフィルタ設定」項目の各欄に表示します。

〈削除〉ボタン

〈削除〉ボタンをクリックすると、IPフィルターが削除されます。

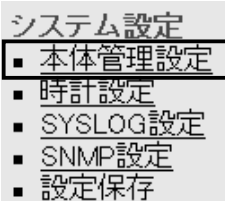
この章では、
「システム設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

4-1.「本体管理設定」画面	64
■ 管理者ID設定	64
■ 管理者IPアドレス	65
4-2.「時計設定」画面	66
■ 内部時計設定	66
■ 自動時計設定	67
4-3.「SYSLOG設定」画面	68
■ SYSLOG設定	68
4-4.「SNMP設定」画面	69
■ SNMP設定	69

4 「システム設定」メニュー

4-1. 「本体管理設定」画面

■ 管理者ID設定



本製品の設定画面へのアクセス制限を設定します。

本体管理設定
管理者IDなどの設定を行います。

登録 取消

管理者ID設定

管理者ID	①	<input type="text"/>
管理者パスワード	②	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	③	<input type="password"/>

- 〈登録〉ボタン …………… [管理者ID設定]項目で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… [管理者ID設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 管理者ID …………… 本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。 (入力例：AP5100A)
[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。
- ② 管理者パスワード …………… [管理者ID]に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。 (表示例：*****)
[管理者パスワード]を設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。
- ③ パスワードの確認入力 …… 確認のために、パスワードを再入力します。 (表示例：*****)

4-1.「本体管理設定」画面(つづき)

■ 管理者IPアドレス

システム設定

- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- 設定保存

本製品の設定画面へのアクセスをIPアドレスで制限するときの設定です。

管理者IPアドレス	
管理者IP1	<input type="text"/>
管理者IP2	<input type="text"/>
管理者IP3	<input type="text"/>

本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者が本製品に有線または無線でアクセスするパソコンのIPアドレスを3台まで登録できます。(入力例：192.168.0.5)

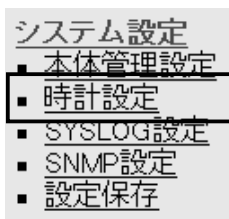
※[管理者IPアドレス]を設定すると、IPアドレスが登録されたパソコン以外は、次回のアクセスから本製品の設定画面にアクセスできなくなります。

※空白の場合は、本製品に接続するすべてのパソコンが設定画面にアクセスできます。

4 「システム設定」メニュー

4-2. 「時計設定」画面

■ 内部時計設定



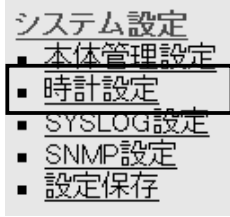
本製品の内部時計を設定します。

時計設定							
本体の内部時計の設定を行います。							
[登録]		[取消]					
内部時計設定							
本体の時刻	①	2003年	01月	01日	01時	07分	
設定する時刻	②	2003年	12月	10日	10時	20分	[時刻設定] ③

- 〈登録〉ボタン [自動時計設定]項目で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン 「時計設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 本体の時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ② 設定する時刻 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を、最初に表示します。
※〈取消〉ボタンをクリックすると、空白になります。
WWWブラウザの〈更新〉ボタンをクリックすると、パソコンの時計設定を取得して表示します。
- ③ 〈時刻設定〉ボタン [設定する時刻](②)欄に表示された時刻を本製品に設定するボタンです。
時刻を正確に設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスしなおすか、WWWブラウザの〈更新〉ボタンをクリックしてから、〈時刻設定〉ボタンをクリックしてください。

4-2.「時計設定」画面(つづき)

■ 自動時計設定



本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバの設定です。

自動時計設定		
自動時計設定を使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NTPサーバ1 IPアドレス	②	<input type="text" value="133.100.9.2"/>
NTPサーバ2 IPアドレス	③	<input type="text"/>
アクセス時間間隔	④	<input type="text" value="1"/> 日
前回アクセス日時	⑤	----/--/-- --:--
次回アクセス日時	⑥	2003/01/02 00:00

- ① 自動時計設定を使用 …………… インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。 (出荷時の設定：する)

- ② NTPサーバ1 IPアドレス …………… 最初にアクセスするタイムサーバのIPアドレスを入力します。 (出荷時の設定：133.100.9.2)

- ③ NTPサーバ2 IPアドレス …………… [NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスします。

- ④ アクセス時間間隔 …………… タイムサーバにアクセスする間隔を設定します。
設定できる範囲は、「0～99」です。 (出荷時の設定：1)
「0」を設定したときは、タイムサーバにアクセスを行いません。
回線に手動で接続したとき、前回アクセスした日から設定した日数が経過しているときは、接続時にタイムサーバにアクセスしません。
回線への常時接続を設定しているときは、設定した日数にしたがってアクセスします。

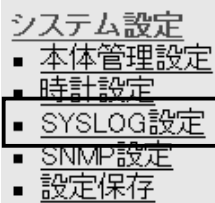
- ⑤ 前回アクセス日時 …………… タイムサーバにアクセスした日時を表示します。

- ⑥ 次回アクセス日時 …………… タイムサーバにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時]欄と[アクセス時間間隔]欄で設定された日数より算出して表示します。

4 「システム設定」メニュー

4-3.「SYSLOG設定」画面

■ SYSLOG設定



指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。

SYSLOG設定

指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。SYSLOG機能を利用してファイルとして一括管理ができます。

登録 取消

SYSLOG設定	
DEBUGを使用 ①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
INFOを使用 ②	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
NOTICEを使用 ③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ホストアドレス ④	<input type="text"/>
ファシリティ ⑤	<input type="text" value="1"/>

〈登録〉ボタン …………… 「SYSLOG設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………… 「SYSLOG設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① DEBUGを使用 …………… 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)

② INFOを使用 …………… INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)

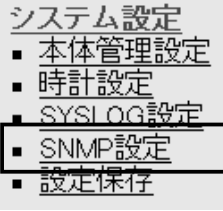
③ NOTICEを使用 …………… NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)

④ ホストアドレス …………… SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。

⑤ ファシリティ …………… SYSLOGのファシリティを入力します。
設定できる範囲は、「0～23」です。
通常「1」を使用します。
(出荷時の設定：1)

4-4.「SNMP設定」画面

■ SNMP設定



TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから自動的に情報を収集してネットワーク管理するときの設定です。

SNMP設定

SNMP機能に関する設定を行います。

登録 取消

SNMP設定	
SNMPを使用 ①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
コミュニティID(GET) ②	<input type="text" value="public"/>
コミュニティID(SET) ③	<input type="text" value="private"/>

- 〈登録〉ボタン …………… 「SNMP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン …………… 「SNMP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお 〈登録〉 をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① SNMPを使用 …………… SNMP機能を使用「する」か「しない」かを選択します。
(出荷時の設定：する)
- ② コミュニティID(GET) …… 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを設定します。
(出荷時の設定：public)
入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。
- ③ コミュニティID(SET) …… 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から変更することを許可するIDを設定します。
(出荷時の設定：private)
入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。



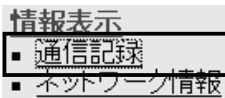
この章では、
「情報表示」メニューで表示される設定画面について説明します。

5-1.「通信記録」画面	72
■ 通信記録	72
5-2.「ネットワーク情報」画面	72
■ ネットワーク インターフェイス リスト	72
■ ブリッジポート情報	73
■ 本体MACアドレス	73

5 「情報表示」メニュー

5-1.「通信記録」画面

■ 通信記録



WAN側回線の通信記録を表示します。

通信記録	
WAN側回線の通信記録を表示します。	
通信記録 <input type="button" value="クリア"/>	
日付・時間	通信記録
09/11 11:42:47	DHCP:BIND (My Address [172.20.252.227] : GW Address [172.20.0.1]) Lease 1 day Lease 24 hour : Primary DNS [172.16.0.5]
09/11 11:42:39	DHCP:RELEASE success
01/01 00:00:05	DHCP:BIND (My Address [172.20.252.227] : GW Address [172.20.0.1]) Lease 1 day Lease 24 hour : Primary DNS [172.16.0.5]

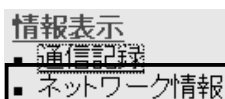
通信記録の履歴は、〈クリア〉をクリックすると消去できます。

【不正アクセス検知時の通信記録表示例】

通信記録	
WAN側回線の通信記録を表示します。	
通信記録 <input type="button" value="クリア"/>	
日付・時間	通信記録
12/11 11:36:17	TCP Syn Flooding: 172.20.252.210->172.20.101.51 TCP[6]src=1784,dst=80
01/01 03:35:44	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.101.51 TCP[6]src=2460,dst=80
01/01 03:34:00	DHCP:RELEASE success
01/01 03:29:16	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.252.94 TCP[6]src=2178,dst=80
01/01 03:28:25	TCP Syn Flooding: 172.20.252.210->172.20.252.94 TCP[6]src=1464,dst=80
01/01 03:22:03	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.252.94 TCP[6]src=2114,dst=80
01/01 03:19:05	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.252.94 TCP[6]src=1863,dst=80

5-2.「ネットワーク情報」画面

■ ネットワーク インターフェイス リスト



「ネットワーク設定」メニューの「ルーティング設定」画面にある[IP経路情報]項目に表示された[経路]について、その詳細を表示します。

ネットワーク情報		
ネットワークインターフェイスリストと本体MACアドレスを表示します。		
ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	サブネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0
wan		255.255.0.0

※回線種別が[PPPoE]/[PPPoE複数固定IP]設定時、[wan]インターフェイスに対する表示は、回線に接続されるまで表示されません。

5-2.「ネットワーク情報」画面(つづき)

■ブリッジポート情報

本製品の各ポートごとに、通信状況とパケットの数を表示します。



ブリッジポート情報		
ポート	通信情報	
Ethernet ①	状況	通信中
	送信パケット数	2
	受信パケット数	0
IEEE802.11a ②	状況	通信中
	送信パケット数	2
	受信パケット数	0
IEEE802.11g ③	状況	通信中
	送信パケット数	32
	受信パケット数	35

① Ethernet……………

[LAN]ポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

② IEEE802.11a ……

54Mbps(5.2GHz)無線LANポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

③ IEEE802.11g ……

54Mbps(2.4GHz)無線LANポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

■本体MACアドレス

本製品のMACアドレスを表示します。

※このMACアドレスは、本製品の底面パネルに貼られているシリアルシールにも12桁で記載されています。





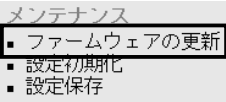
この章では、
「メンテナンス」メニューで表示される設定画面について説明します。

6-1.「ファームウェアの更新」画面	76
■ ファームウェアファイルを指定	76
■ 「Firm Utility使用」モード	77
6-2.「設定初期化」画面	78
■ 「設定初期化」画面	78
6-3.「設定保存」画面	79
■ 設定の保存と書き込み	79
■ 現在の設定の確認	80

6 「メンテナンス」メニュー

6-1.「ファームウェアの更新」画面

■ ファームウェアファイルを指定

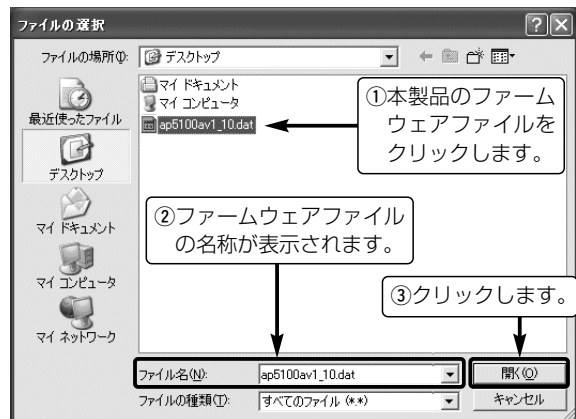


本製品のファームウェアをバージョンアップするときなど、アイコンホームページからダウンロードしているファームウェアファイルを指定して書き込むとき使用します。



① <参照...> ボタン ……………

パソコンに保存しているファームウェアファイル(拡張子：.dat)の保存先をテキストボックスに直接入力する代わりに、このボタンをクリックして表示される「ファイルの選択」画面(※下記参照)から目的の設定ファイルをクリックして、<開く(O)> をクリックすると、指定したファイルとその階層がテキストボックスに自動入力されます。

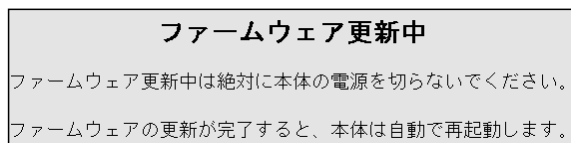


② <書き込み> ボタン ……………

テキストボックスに表示された保存先のファームウェアファイル(拡張子：.dat)を本製品に書き込みます。

本製品の設定画面が表示されるまで、そのまま待ちます。

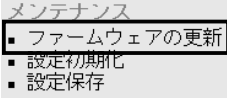
- 書き込み中は、次の画面を表示後、「再起動しています。しばらくお待ちください。」と表示します。



再起動しています。しばらくお待ちください。

6-1.「ファームウェアの更新」画面(つづき)

■「Firm Utility使用」モード

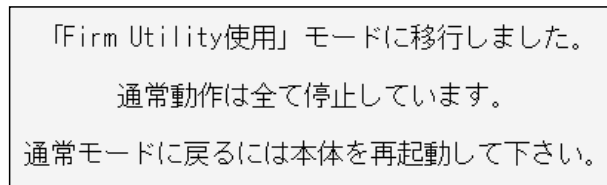


本製品に付属の「Firm Utility」を使用して、本製品を出荷時の状態に戻したり、ファームウェアをバージョンアップするとき使用します。



「Firm Utility使用」モードにするときは、[移行する]欄のチェックボックスをクリックしてチェックマークを入れてから、〈実行〉ボタンをクリックします。

- 次の画面を表示して、「Firm Utility使用」モードに移行します。



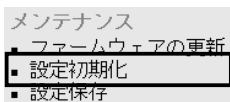
※「Firm Utility使用」モードに移行後も、本製品に設定された内容で動作します。

※「Firm Utility使用」モードに移行しないと、「Firm Utility」と本製品が通信できません。

6 「メンテナンス」メニュー

6-2.「設定初期化」画面

■ 設定初期化



本製品の設定内容をすべて出荷時の状態に戻します。

設定初期化

本体の設定を初期化し、必要に応じて再起動します。

設定初期化

初期化する

実行

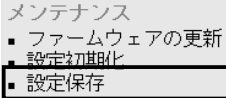
[初期化する]欄のチェックボックスをクリックしてチェックマークを入れてから、〈実行〉ボタンをクリックします。

- 次の画面を表示後、出荷時の状態になります。

再起動しています。しばらくお待ちください。

6-3.「設定保存」画面

■ 設定の保存と書き込み



本製品の設定内容を保存したり、保存した設定ファイルの本製品に書き込んだりします。

設定保存

全設定内容を保存することができます。

設定の保存と書き込み



① 保存したファイルを書き込む ……………

[ファイルに保存する]②欄の操作で保存した設定ファイル(拡張子：.sav)内容を本製品に書き込むとき使用します。

設定ファイルの保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照…〉ボタンをクリックします。



右上の画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(Q)〉をクリックします。

テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉ボタンをクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。

書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。

※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

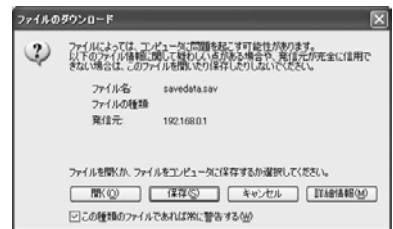
② ファイルに保存する ……………

本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。

[設定の保存と書き込み]項目で[ファイルに保存]をクリックすると表示される右の画面から〈保存(S)〉をクリックすると、設定ファイルを保存できます。

設定ファイルのファイル形式(拡張子)は、「.sav」です。

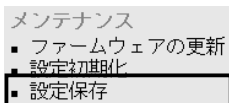
保存したファイルは、[保存したファイルを書き込む]①欄の操作で、本製品自身や本製品を使用する別の相手に書き込みできます。



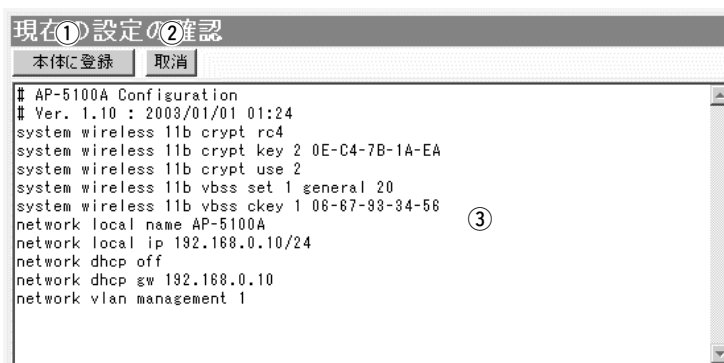
6 「メンテナンス」メニュー

6-3. 「設定保存」画面(つづき)

■ 現在の設定の確認



本製品の設定変更内容を確認したり、表示された内容を本製品に書き込みします。



① <本体に登録> ボタン ……………

「内容表示」(③)部に表示された内容を、本製品に書き込みます。

※[設定の保存と書き込み]項目(☞P79)の「ファイルに保存」をクリックして保存した設定ファイル(拡張子：.sav)は、このボタンを使用して書き込みできません。

② <取消> ボタン ……………

「内容表示」(③)部に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、変更前の内容に戻します。

※<本体に登録> ボタンをクリックすると、変更前の内容には戻りません。

③ 「内容表示」画面 ……………

基本的な設定と初期値から変更された設定を表示します。

この画面内容を設定ファイルとしてパソコンに保存するときは、[設定の保存と書き込み]項目(☞P79)を使用してください。

※各画面で設定されたSSID、パスワード、キージェネレータ(暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存された設定ファイルよりこれらの情報が外部に漏れることはありません。

この章では、

複数固定IPアドレスサービス、Telnetによる接続、PPTPパススルーで使用するパソコンの設定、Webサーバを公開するための設定について説明します。

7-1.複数固定IPアドレスサービスを使うには	82
■ グローバル固定IPアドレスの使いかた	82
7-2.Telnetによる接続	83
■ Windows 2000/Windows XPの場合	83
■ Windows 98/98 SE/Meの場合	83
■ [CONSOLE]ポートを使用する	84
■ オンラインヘルプ	84
7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定	85
■ Windows XPをクライアントに使用する場合	85
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合	90
■ Windows Meをクライアントに使用する場合	94
7-4.Web公開の設定例	101
1. WWWサーバの設定	101
2. Web公開の設定	102

7-1.複数固定IPアドレスサービスを使うには

ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーがこのサービスを提供している場合、このサービスをご契約になると、回線接続業者、またはプロバイダーから利用可能な複数のグローバル固定IPアドレスを指定されます。

これらのグローバル固定IPアドレスは、本製品の動作モードを「PPPoE複数固定IP」(「**■**回線種別」P47)に変更することで、本製品のEthernetケーブルに接続されたパソコン(LAN側)に直接設定して利用できます。

また、本製品のDHCPサーバ機能などで、自動割り当てされたプライベートアドレスのパソコンと混在した環境でご利用いただけます。

■ グローバル固定IPアドレスの使いかた

ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから8個のグローバル固定IPアドレスを指定された場合を例に、その使いかたを説明します。

◎割り当てられた指定の8個：172.16.0.48～172.16.0.55

◎サブネットマスク：255.255.255.248

◎ネットワークIPアドレス：172.16.0.48(使用できません)

◎ブロードキャストアドレス：172.16.0.55(使用できません)

◎172.16.0.49(WAN側IPアドレスとして本製品に設定)

◎172.16.0.50(本製品に接続するパソコンに使用可能)

◎172.16.0.51(本製品に接続するパソコンに使用可能)

◎172.16.0.52(本製品に接続するパソコンに使用可能)

◎172.16.0.53(本製品に接続するパソコンに使用可能)

◎172.16.0.54(本製品に接続するパソコンに使用可能)

※指定以外のグローバルIPアドレスを使用することはできません。

また、連続で指定された複数のグローバル固定IPアドレスのうち、最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)は、ネットワーク上でホストに割り当てて使用できない規則になっています。

7-2.Telnetによる接続

Telnetでの接続について説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■ Windows 2000/Windows XPの場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。名前欄に「Telnet.exe」と入力し、<OK>をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、下記のように指定します。
Microsoft Telnet>open 本製品のIPアドレス
(工場出荷時の設定：192.168.0.1)
- ④ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面で設定(※P64)した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※出荷時は、[User]と[Password]は設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
- ⑤ ログインメッセージ(Welcome to AP-5100A!)が表示されます。

■ Windows 98/98 SE/Meの場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、<OK>をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]→[リモートシステム]を選択します。
- ④ [接続]ダイアログボックスが表示されます。
ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択して、<接続(C)>ボタンをクリックします。
ホスト名：本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
ポート：telnet(23)
ターミナルの種類：vt100
- ⑤ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面で設定(※P64)した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※出荷時は、[User]と[Password]は設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
- ⑥ ログインメッセージ(Welcome to AP-5100A!)が表示されます。

7-2.Telnetによる接続(つづき)

■ [CONSOLE]ポートを使用する

本製品の[CONSOLE]ポートとパソコンの[COM]ポートを弊社別売品のケーブル(OPC-1402)で接続すると、ターミナルソフトから設定できます。

パソコンの[COM]ポートは、下記の値に設定すると使用できます。

[接続方法]の選択： OPC-1402を接続している[COM]ポートの番号を指定します。

通信速度 : 115200(ビット/秒)

データビット : 8

パリティ : なし

ストップビット : 1

フロー制御 : なし

※設定後、何も入力せずに[Enter]キーを押すと、「AP-5100A #」と表示されます。

■ オンラインヘルプ

Telnet、または[CONSOLE]ポートを使用したターミナルソフトの接続では、オンラインで、コマンドリファレンスを参照できません。

◎コマンド一覧 ……………

[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

◎コマンドヘルプ ……………

コマンドの意味を知りたい時は、コマンド名の入力に続いて[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

◎コマンド名の補完 ……………

コマンド名を先頭から途中まで入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。

入力した文字に続くコマンドが一つしか無いときは、コマンド名を最後まで補完します。

例) cl[Tab]→clear

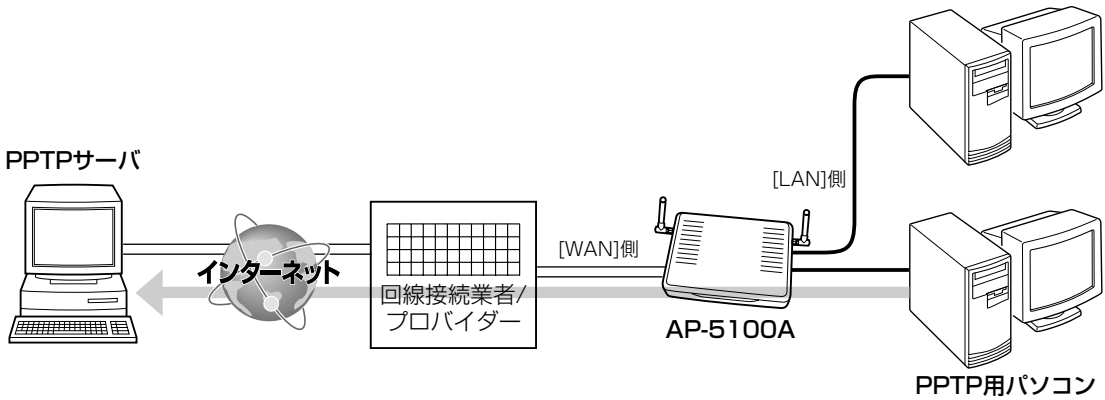
複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。さらに[Tab]キーを押すと、コマンドの候補を表示します。

例) r[Tab]→re

re[Tab]→restart remote

res[Tab]→restart

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定 ■ Windows XPをクライアントに使用する場合



〈PPTP用のパソコン設定例〉

©Windows XPの場合

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

〈設定の手順〉

- 1.設定に使用するパソコンを起動します。
- 2.「ログオン」画面が表示されたら、管理者のユーザー名でログオンします。
- 3.起動したら、マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
- 4.コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
- 5.[ネットワーク接続]アイコンをクリックします。



- 6.[新しい接続を作成する]をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

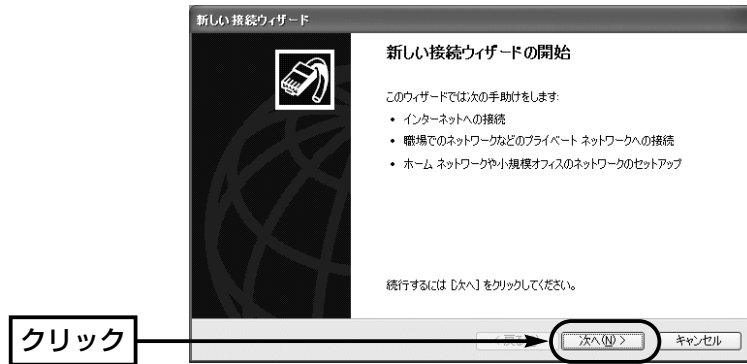
■ Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

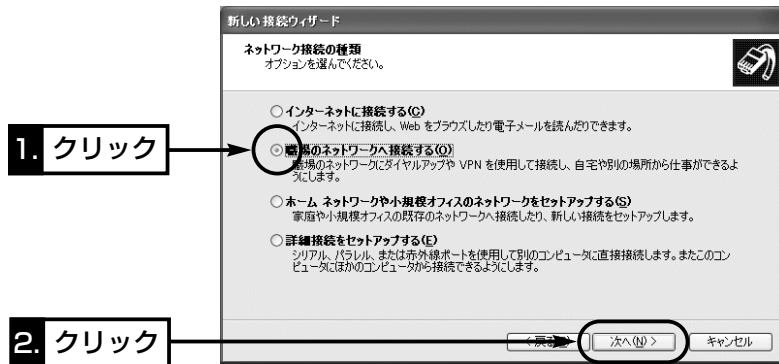
◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

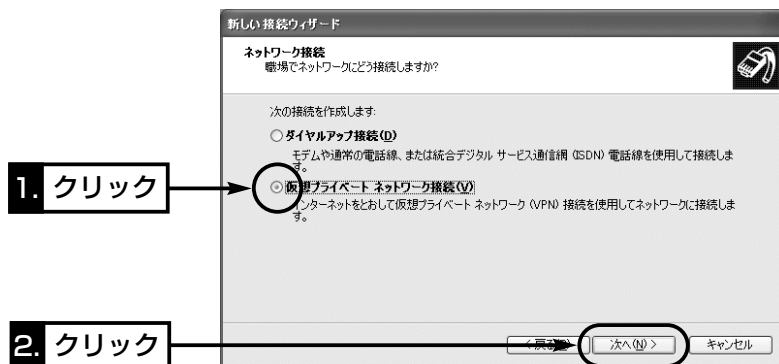
7. 〈次へ(N)〉をクリックします。



8.[職場のネットワークへ接続する(Q)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



9.[仮想プライベート ネットワーク接続(V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

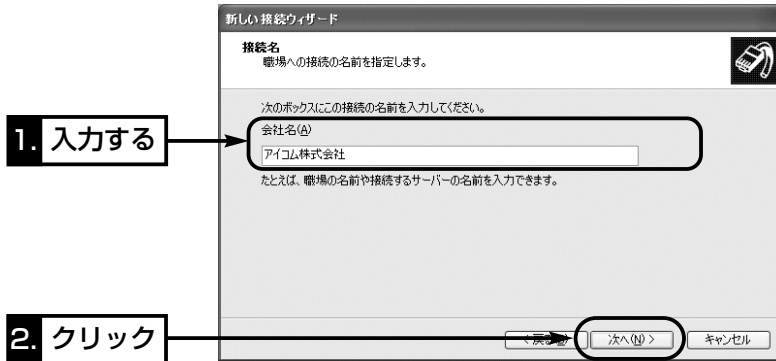
■ Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

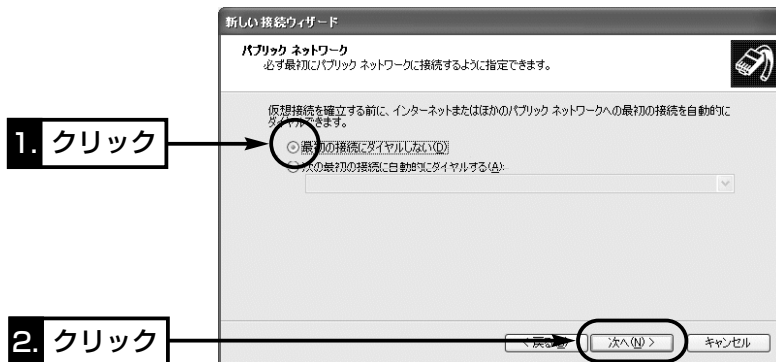
◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

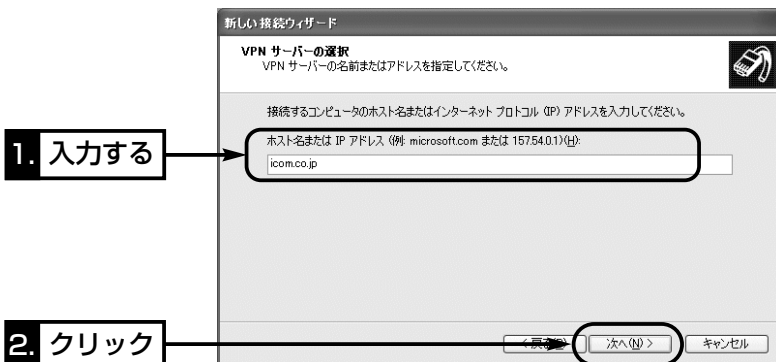
10.接続先名を[会社名(A)]のテキストボックスに入力して、次へ(N) をクリックします。



11.次の画面が表示されたときは、[最初の接続にダイヤルしない(D)]をクリックして、次へ(N) をクリックします。



12.ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、次へ(N) をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

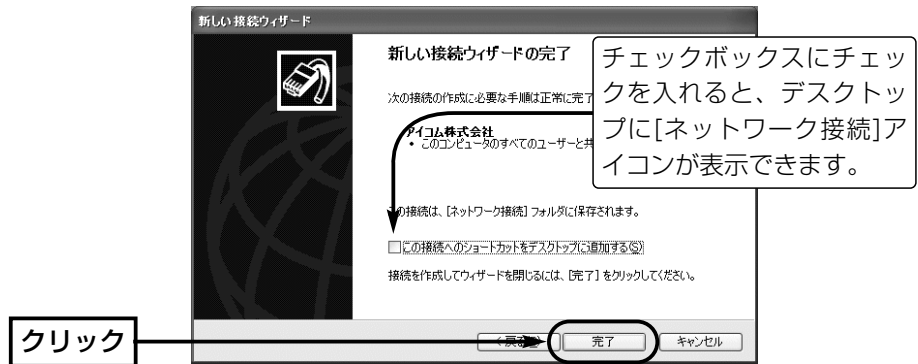
■ Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

13. 〈完了〉をクリックします。



14.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■ Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

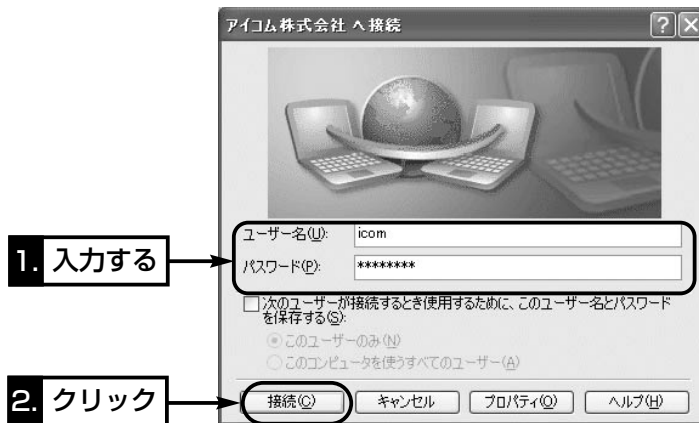
◎Windows XPの場合(つづき)

〈設定後、接続するには〉

1. 〈スタート〉 → [コントロールパネル(C)]の順に操作します。
2. コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
3. [ネットワーク接続]アイコンをクリックします。
4. 仮想プライベート ネットワークにあるアイコンをクリックします。



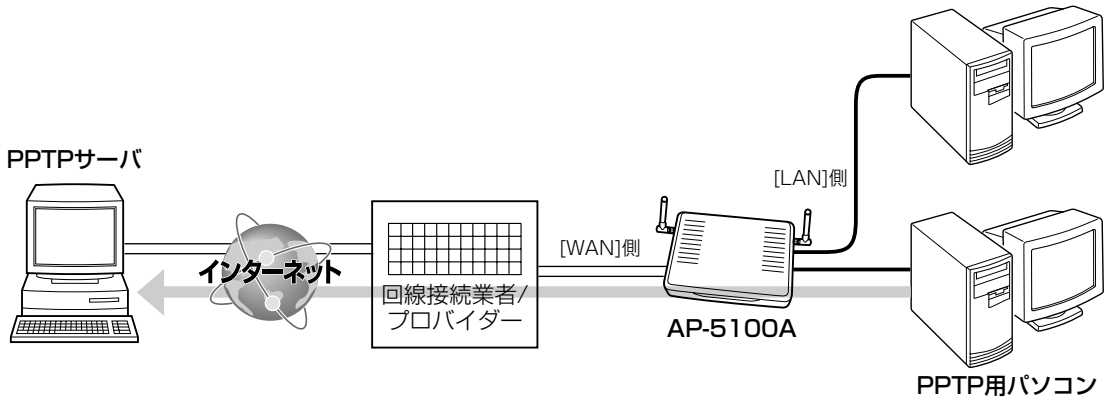
5. PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定(つづき)

■ Windows 2000をクライアントに使用する場合



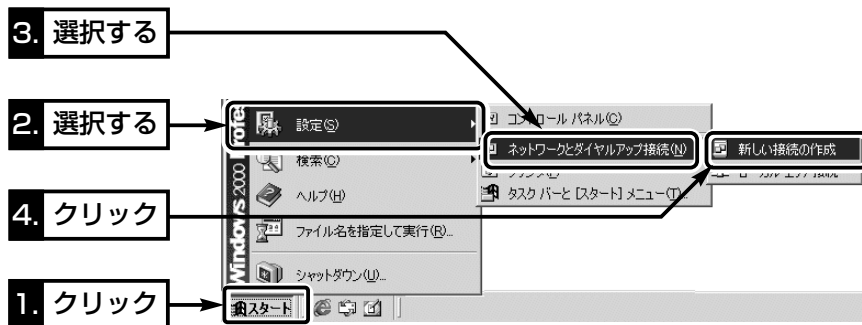
〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

©Windows 2000の場合

〈設定の手順〉

1. マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続の作成]をクリックします。



2. 〈次へ(N)〉をクリックします。



7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

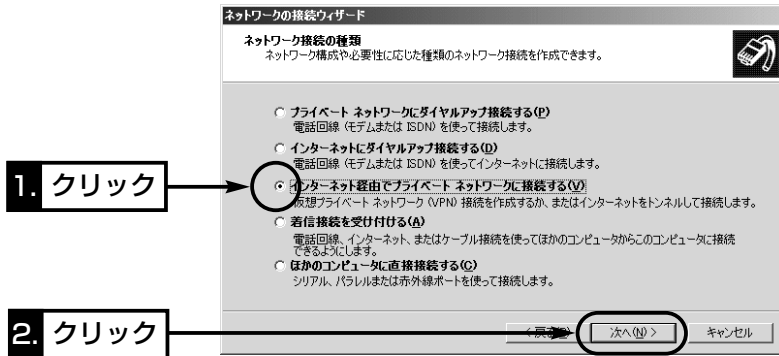
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

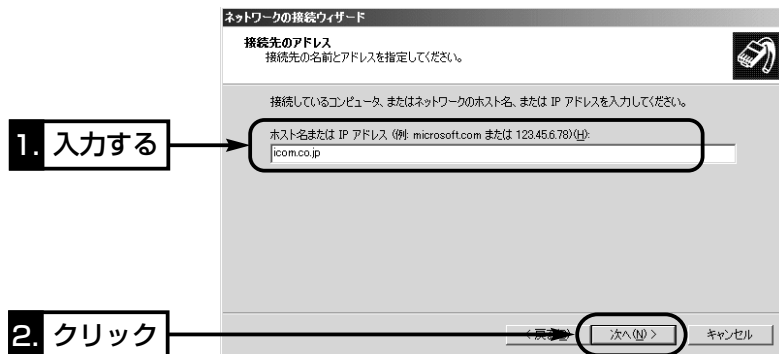
◎Windows 2000の場合

〈設定の手順〉(つづき)

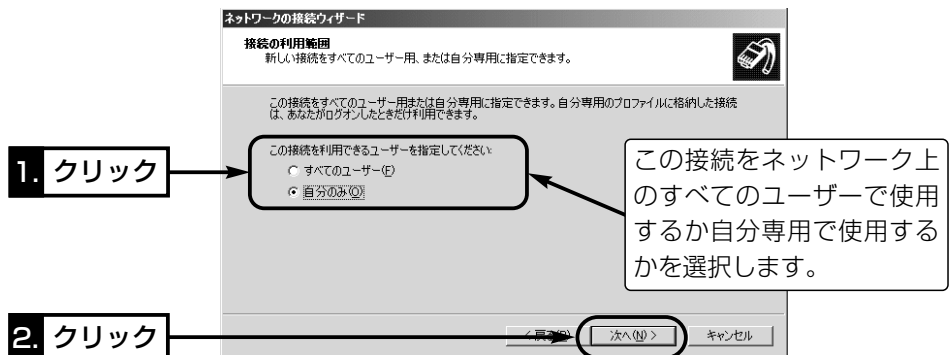
3.[インターネット経由でプライベート ネットワークに接続する (V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



4.ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、または IPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



5.使用目的に該当する(例：自分のみ(C))ラジオボタンをクリックしてから、〈次へ(N)〉をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

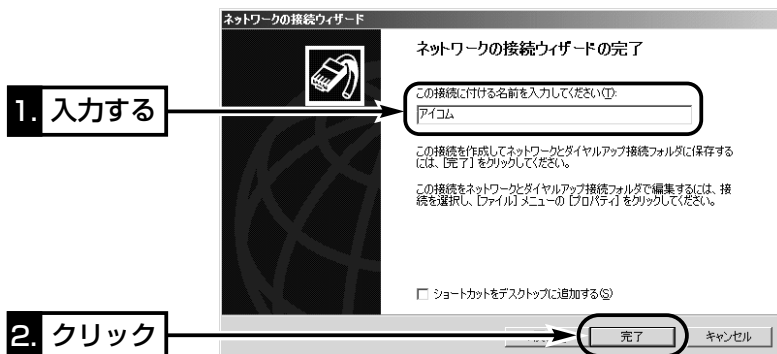
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

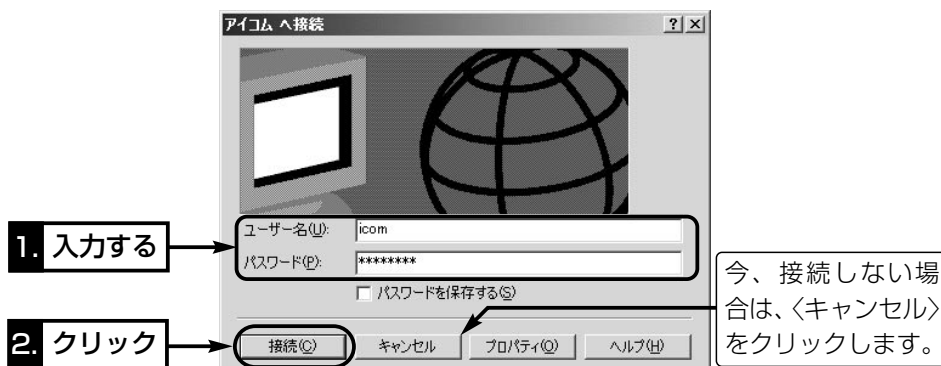
◎Windows 2000の場合

〈設定の手順〉(つづき)

6.あとでわかるように、任意で接続先名を入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



7.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

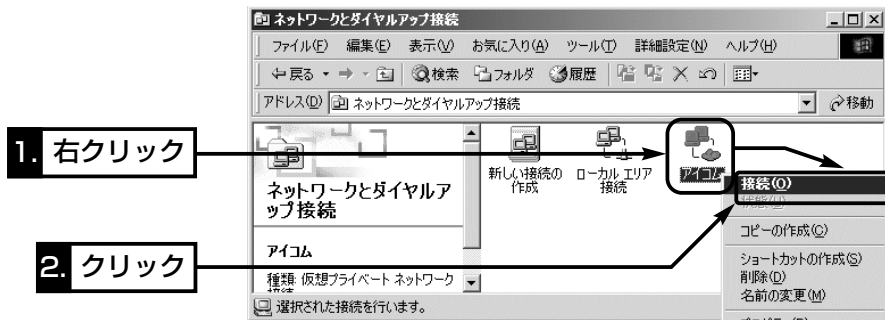
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

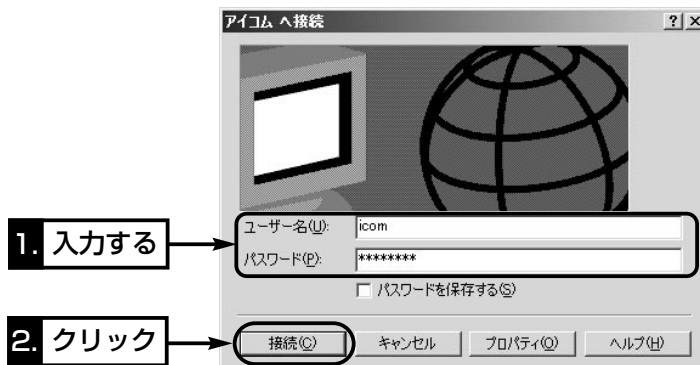
◎Windows 2000の場合(つづき)

〈設定後、接続するには〉

- 1.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作します。
- 2.新しく作成されたアイコンを右クリックして、[接続(C)]をクリックします。



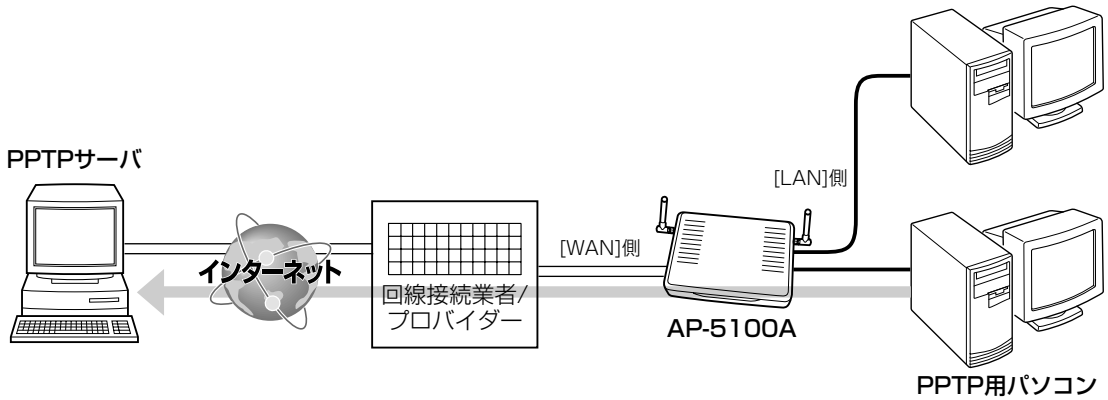
- 3.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定(つづき)

■ Windows Meをクライアントに使用する場合



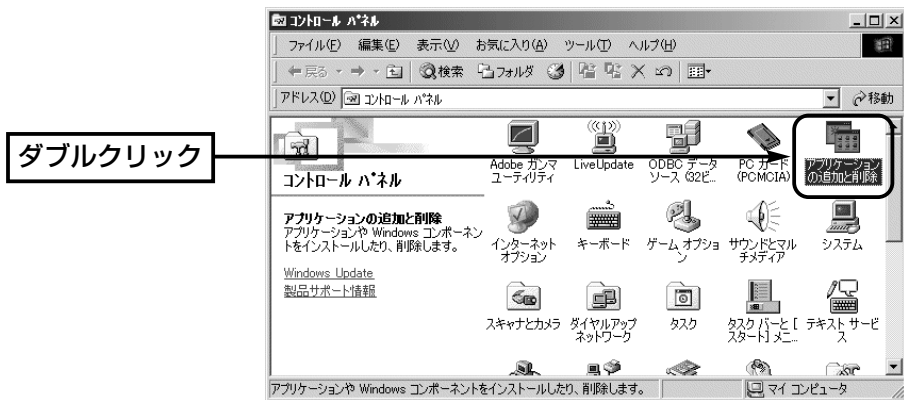
〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉

- 1.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。



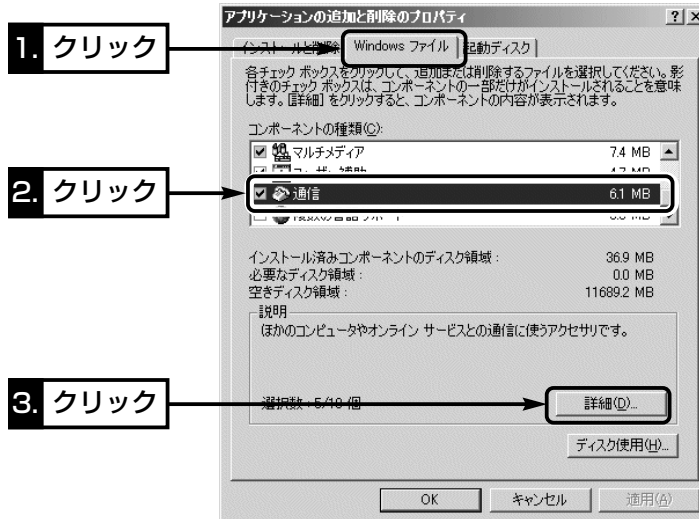
7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■ Windows Meをクライアントに使用する場合
 〈PPTP用のパソコン設定例〉

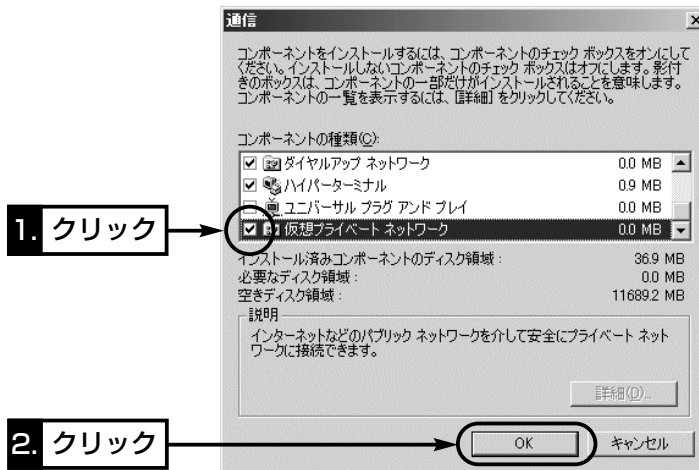
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

3.[Windows ファイル]タブ→[通信]→〈詳細(D)〉の順にクリックします。



4.[仮想プライベート ネットワーク]のチェックボックスにチェックを入れてから、〈OK〉をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

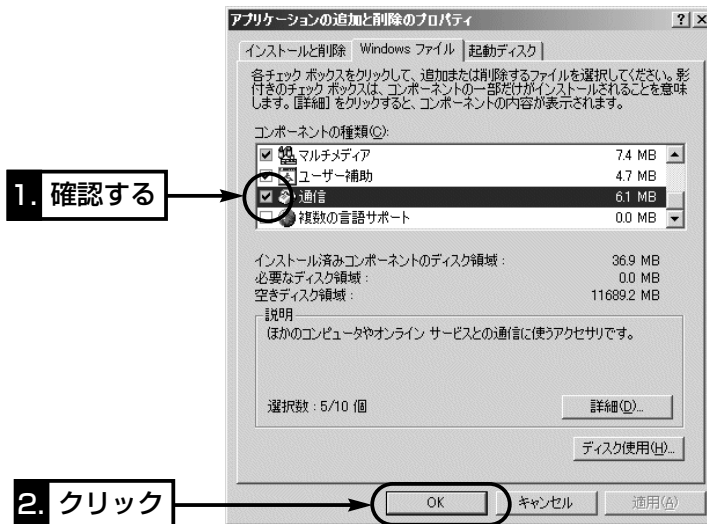
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

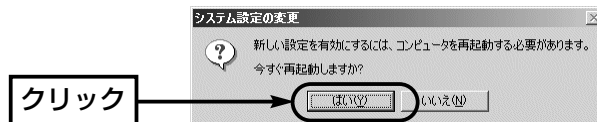
〈設定の手順〉(つづき)

5.[通信]にチェックマークが入っていることを確認して、〈OK〉をクリックします。

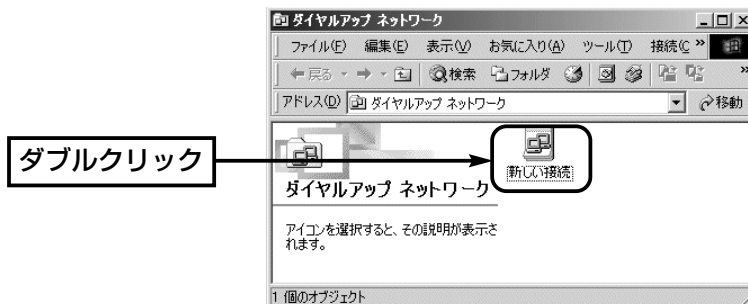


6. 〈はい(Y)〉をクリックします。

- パソコンが再起動します。



7.マウスを 〈スタート〉 → [設定(S)] → [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続]をダブルクリックします。



7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

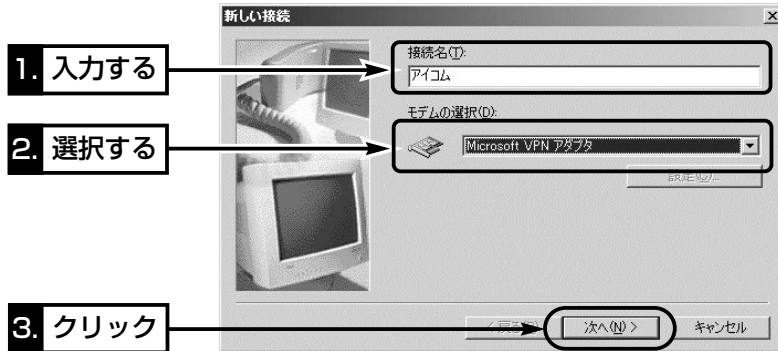
■ Windows Meをクライアントに使用する場合
 〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

8.[接続名(I)]には、あとでわかるように、任意で接続先名を入力します。

9.[モデムの選択(D)]から、「Microsoft VPN アダプタ」を選択して、〈次へ(N)〉をクリックします。



10.ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



11. 〈完了〉をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

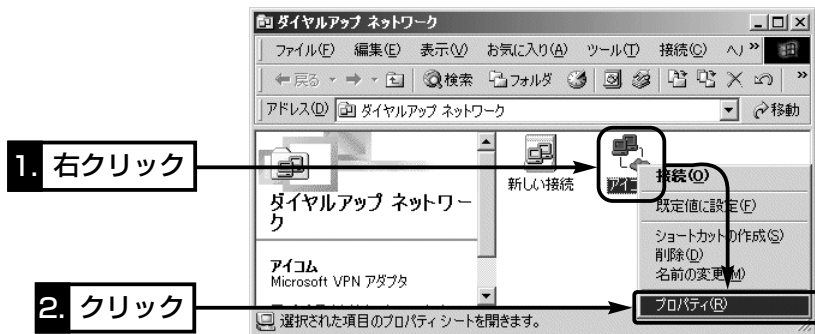
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

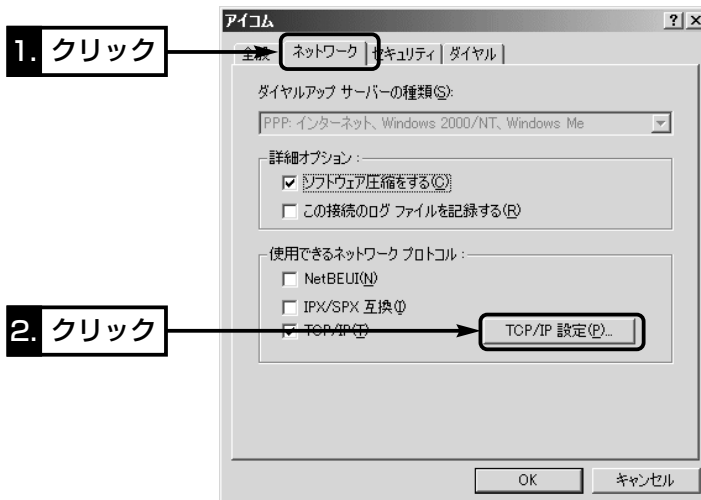
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

12.新しく作成されたアイコンを右クリックして、[プロパティ (R)]をクリックします。



13.[ネットワーク]タブ→〈TCP/IP 設定(P)...〉の順にクリックします。



7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

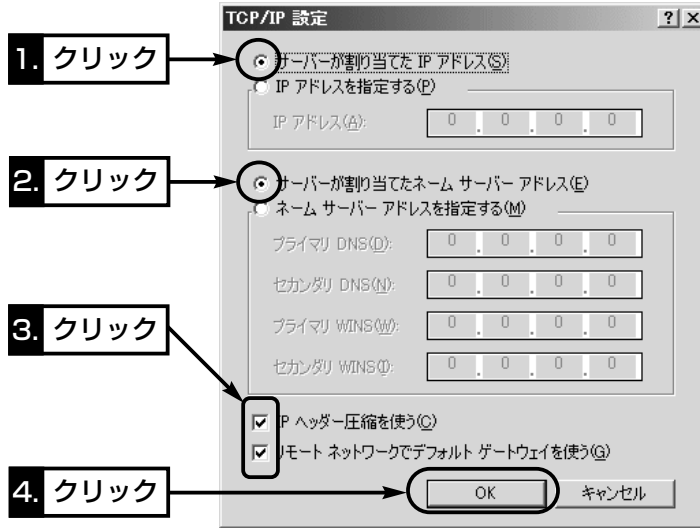
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

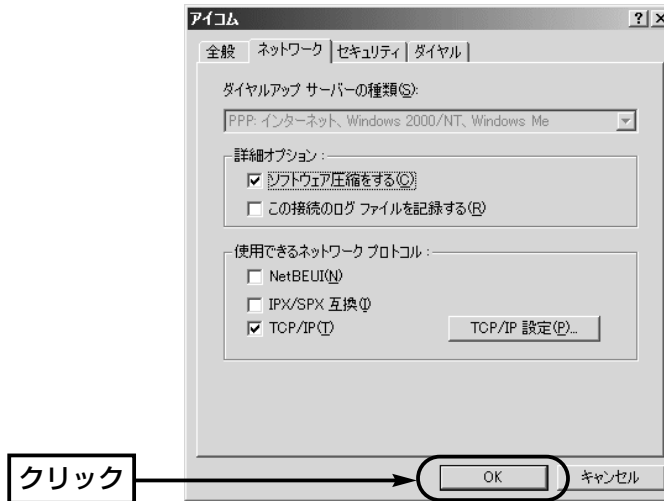
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

14.ラジオボタンとチェックボックスをクリックして、下記の画面の状態にして、〈OK〉をクリックします。



15. 〈OK〉をクリックします。



7 ご参考に

7-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

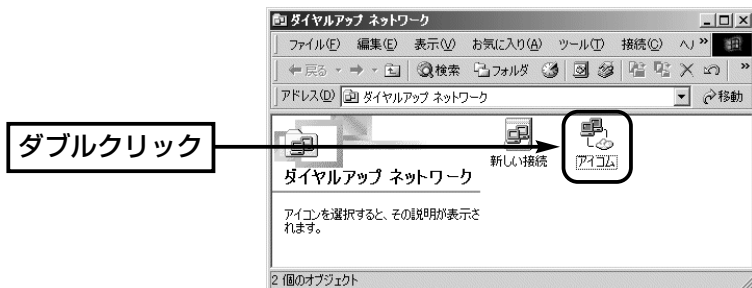
■ Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

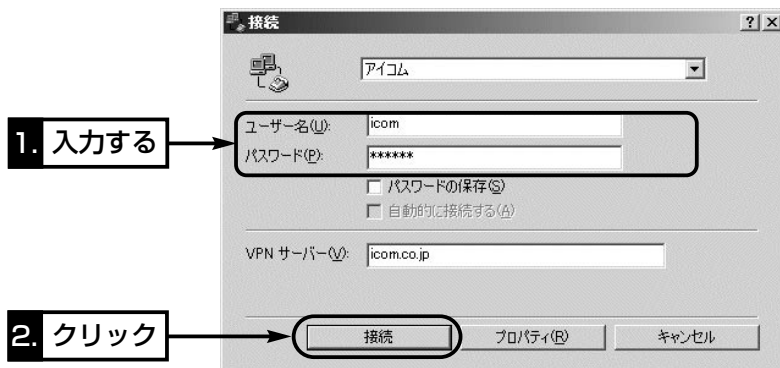
◎Windows Meの場合(つづき)

〈接続の手順〉

- 1.マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ダイヤルアップネットワーク(N)]の順番に操作します。
- 2.新しく作成されたアイコンをダブルクリックします。

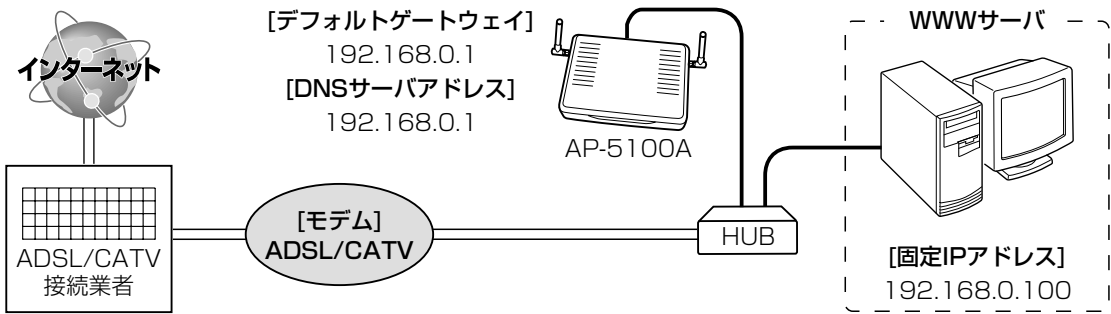


- 3.PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続〉をクリックします。



7-4.Web公開の設定例

本製品を使用してWebサーバを公開するための準備と本製品の設定例を、下記の図を例に説明します。



1.WWWサーバの設定

- ①WWWサーバとして使用するパソコンのIPアドレスがDHCPサーバから自動的に取得する設定になっている場合は、[TCP/IP]のプロパティで、IPアドレスを固定(例：192.168.0.100)します。
- ②「デフォルトゲートウェイ」と「DNSサーバアドレス」は、本製品に出荷時設定された値(192.168.0.1)を使用すると仮定しますので、それらも併せて設定します。
- ③設定後、このパソコンからインターネットに接続できることを確認します。

7 ご参考に

7-4.Web公開の設定例(つづき)

2. Web公開の設定

①本製品の設定画面にアクセスして、「WAN側設定」メニューの「アドレス変換設定」をクリックします。

- 「アドレス変換設定」画面を表示します。

②パソコンの固定IPアドレス(例：192.168.0.100)を[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[ローカルIP]欄に入力します。

③指定するプロトコルは「TCP」で、[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[プロトコル]欄で選択します。

④指定するポートは「Web(80番)」で、[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[ポート]欄で選択します。

⑤〈追加〉をクリックします。

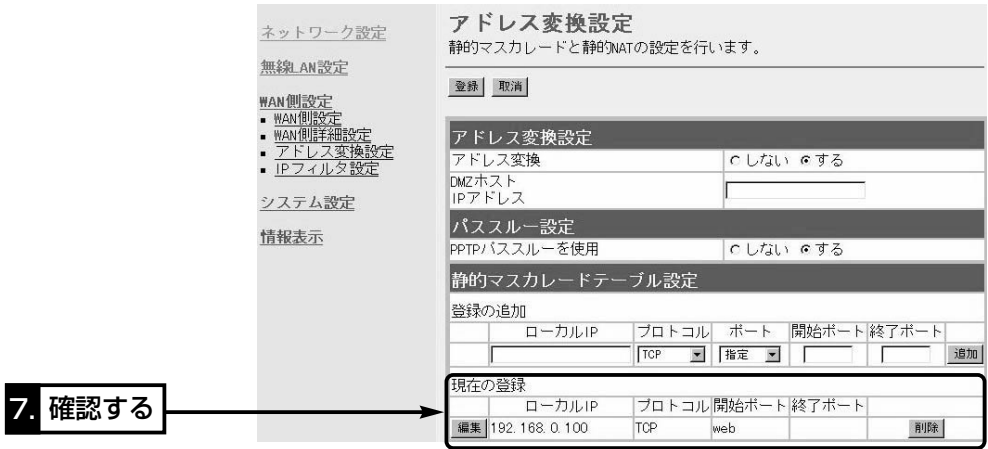
The screenshot shows the 'アドレス変換設定' (Address Conversion Settings) page. On the left, a navigation menu includes 'WAN側設定' (WAN Side Settings) and 'アドレス変換設定' (Address Conversion Settings). The main area is titled '静的マスカレード設定' (Static Masquerade Settings) and contains a table for adding entries. The table has columns for 'ローカルIP' (Local IP), 'プロトコル' (Protocol), 'ポート' (Port), '開始ポート' (Start Port), and '終了ポート' (End Port). A row is pre-filled with '192.168.0.100', 'TCP', and 'Web'. An '追加' (Add) button is at the end of the row. Numbered callouts 1 through 6 point to the following elements: 1. Clicking 'アドレス変換設定' in the menu; 2. Clicking '登録の追加' (Add Entry); 3. Inputting '192.168.0.100' in the 'ローカルIP' field; 4. Selecting 'TCP' in the 'プロトコル' dropdown; 5. Selecting 'Web' in the 'ポート' dropdown; 6. Clicking the '追加' button.

ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート	終了ポート	
192.168.0.100	TCP	Web			追加

7-4.Web公開の設定例

2.Web公開の設定(つづき)

⑥設定した内容を[静的マスカレード設定]項目の[現在の登録]欄で確認します。



⑦「WAN側設定」メニューの「IPフィルタ設定」をクリックします。

- 「IPフィルタ設定」画面を表示します。

⑧「56」を「IPフィルタ設定」項目の「番号」欄に入力します。

⑨指定するフィルタ方向は「WAN側から」で、「IPフィルタ設定」項目の「フィルタ方向」欄で選択します。

⑩指定するフィルタ方法は「透過」で、「IPフィルタ設定」項目の「フィルタ方向」欄で選択します。

⑪指定するプロトコルは「TCP」で、「IPフィルタ設定」項目の「プロトコル」欄で選択します。

⑫指定する宛先ポート番号は「80」(Web)で、「IPフィルタ設定」項目の「宛先ポート番号」欄に入力します。

⑬宛先IPアドレスは、パソコンの固定IPアドレス(例：192.168.0.100)で、「IPフィルタ設定」項目の「宛先IPアドレス」欄に入力します。

⑭〈追加〉をクリックします。



7 ご参考に

7-4.Web公開の設定例

2. Web公開の設定(つづき)

⑮設定した内容を[現在の登録]項目で確認できたら設定完了です。

13. 確認する

現在の登録		番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス
編集	削除	56	WAN側から	透過	TCP	*	web	*	192.168.0.100
編集	削除	57	WAN側から	透過	TCP	20	*	*	*
編集	削除	58	WAN側から	遮断	TCP_EST	*	*	*	*
編集	削除	59	両方	遮断	ALL	135	*	*	*
編集	削除	60	両方	遮断	ALL	*	135	*	*
編集	削除	61	両方	遮断	ALL	445	*	*	*
編集	削除	62	両方	遮断	ALL	*	445	*	*
編集	削除	63	両方	遮断	TCP	*	137 - 139	*	*
編集	削除	64	両方	遮断	UDP	137 - 139	137 - 139	*	*

【ご参考に】

グローバルアドレスでのホームページ公開を確認するときは、本製品のWAN側から行ってください。

高品質がテーマです。